久留米市文化財調査報告書　第 443 集

十 間 屋 敷 遺 跡

―第 11 次発掘調査報告―

久留米城下町遺跡

―第 30 次発掘調査報告―

令和５(2023)年３月
久留米市教育委員会

十 間 屋 敷 遺 跡

―第 11 次発掘調査報告―

久留米城下町遺跡

―第 30 次発掘調査報告―

令和５(2023)年３月
久留米市教育委員会

序

久留米市は、筑紫平野の中央に位置し、陸路と水路の要衝であることから、古くから筑後地方における政治・経済・文化の中心地として発展を遂げてきました。また、それに伴い市内各所に数多くの文化財が残されています。久留米市教育委員会は、開発によって失われる先人が残した貴重な文化財を後世に伝えていくために、現状保存、あるいは発掘調査を行うことで記録保存の措置を講じています。

今回の発掘調査は、久留米城下の南東部に位置する日吉町と通町で実施しました。十間屋敷遺跡は、久留米藩家老の有馬主膳の中屋敷にあたり、溝や畝状遺構が発見されました。また、久留米城下町遺跡では、鍛冶屋の遺構が発見され、久留米城下における鉄製品の生産の実態を明らかにする貴重な資料を得ることができました。今回の発掘調査とその成果を通して、久留米の歴史と文化財保護に対する理解や普及などに貢献できれば幸いです。

末文となりましたが今回の発掘調査に際して、土地所有者の方々をはじめ、関係各位に多大なご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

令和５年３月 31 日

久留米市教育委員会

教育長　井上　謙介

例　言

1．本書は、共同住宅建設に先立ち九電不動産株式会社の委託を受けて実施した、十間屋敷遺跡第11次調査・久留米城下町第30次調査の発掘調査報告書である。

2．調査は久留米市教育委員会が調査主体となり、市民文化部文化財保護課の長谷川桃子が担当した。

3．遺構実測図の作成は、長谷川と中村麻衣、山田治代、田中とし子、松尾朱美が行い、浄書は長谷川が行った。

4．遺物の実測は、長谷川と江口里織が行い、浄書は長谷川が行った。

5．遺構写真はCanon EOS5D Mark Ⅳ・Canon EOS6D Mark Ⅱを用いて、長谷川が撮影した。遺物写真は久留米市埋蔵文化財センターにおいて、PENTAX K- 1 Ⅱを用いて長谷川が撮影した。なお、本文中の遺物番号・遺物実測図・写真図版の遺物番号は同一である。

6．遺構配置図は、トータルステーションを用いて測量し、測量データは「遺構くんcubic」で編集・保存した。なお、個別遺構図については水糸メッシュ法（1/10）で記録した。

7．図面の方位は座標北を示す。基準点の座標は、国土調査法第Ⅱ座標系（世界測地系）を用いた。なお、平成28年の熊本地震に伴うパラメーター補正は行っていない。

8．遺構表記の略記号は、以下の通りである。

　ＳＤ－溝　　ＳＥ－井戸　　ＳＫ－土坑　　ＳＰ－ピット　　ＳＸ－不明遺構・鍛冶遺構

9．遺物観察表の凡例は、以下の通りである。

・法量の単位はcmである。（　）内の数値は復元値および残存値を示す。

・色調は、『新版　標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1997年版）に拠るものである。

10. 出土遺物・図面等諸記録は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・保管されている。

11. 十間屋敷遺跡第11次調査の略記号はＬＫＪ－011、調査番号は202106である。
久留米城下町遺跡第30次調査の略記号はＬＫＭ－030、調査番号は202109である。

12. 久留米城下町遺跡出土の鉄滓等の整理・報告書の執筆にあたっては、松井和幸氏（元北九州市立埋蔵文化財センター次長）及び村上恭通氏（愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター長）の指導を受け、検討を行った。

13. 久留米城下町遺跡出土のガラス製品については、比佐陽一郎氏（福岡市文化財活用課）の協力を得て、蛍光Ｘ線による元素分析を行った。

14. 近世陶磁器の分類・時期については、主に以下の文献を参考にした。また、大石昇（会計年度任用職員）及び当課職員の水原道範の教示も得た。

・九州近世陶磁学会　2000　『九州近世陶磁学会10周年記念　九州陶磁の編年』

・福岡県教育委員会　2011 『矢加部町屋敷遺跡Ⅲ　福岡県柳川市矢加部所在遺跡の調査』有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第 11 集
・九州歴史資料館　2012 『矢加部町屋敷遺跡Ⅳ　蒲船津西ノ内遺跡　蒲船津水町遺跡　福岡県柳川市大字矢加部・蒲船津所在遺跡の調査』 有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第 12 集

15.「Ⅳ章　（3）石炭について」の文献については、当課職員の小澤太郎の教示を得た。

16. 本文の執筆・編集は長谷川が行った。

本　文　目　次

Ⅰ．はじめに……1
　１．調査に至る経緯……1
　２．調査及び報告書作成にかかる体制……1
　３．調査の経過……2
Ⅱ．位置と環境……2
Ⅲ．十間屋敷遺跡第 11 次調査……6
　１．検出遺構……6
　２．出土遺物……9
　３．総括……9
Ⅳ．久留米城下町遺跡第 30 次調査……11
　１．検出遺構……11
　２．出土遺物……25
　３．総括……28

挿　図　目　次

第１図　調査地点と周辺の遺跡分布図（1/25,000）……3
第２図　調査地点の位置と周辺地形図（1/2,500）……3
第３図　絵図からみた調査区の位置（縮尺任意）……5
第４図　十間屋敷遺跡第 11 次調査　遺構配置図（1/150）……7
第５図　ＳＤ７・13、トレンチ、ＳＥ 18・ＳＫ 12・16・17 実測図（1/40）……8
第６図　久留米城下町遺跡第 30 次調査　遺構配置図（1/100）……12
第７図　久留米城下町遺跡第 30 次調査　遺構番号図（1/100）……13
第８図　ＳＥ 11・20・34・53 実測図（1/40）……14
第９図　ＳＫ１・３・４・13 ～ 15 実測図（1/40）……15
第10図　ＳＫ 16・17・19・28 ～ 30 実測図（1/40）……16
第11図　ＳＫ 32・35・37・39・40・42・46・48 実測図（1/40）……18
第12図　ＳＫ 49・52・54・56・58・63・64 実測図（1/40）……20
第13図　ＳＫ 70・72 ～ 77・81 実測図（1/40）……22
第14図　ＳＰ２・50・55、ＳＸ７実測図（ＳＸ７は１/40、それ以外は１/20）……24
第15図　ＳＸ 21 実測図（1/40）……26
第16図　蛍光Ｘ線分析結果……27
第17図　鉄製品・鉄滓実測図（1/4）……27

第18図　時期別の鉄滓重量……28
第19図　久留米城下町遺跡第30次調査　主要遺構変遷図（1/300）……31

表　目　次

第１表　十間屋敷遺跡第11次調査　出土遺物観察表……10
第２表　久留米城下町遺跡第30次調査　水洗した埋土一覧……25
第３表　出土鉄滓の重量……28
第４表　鍛冶関連遺物出土遺構一覧表……32
第５表　久留米城下町遺跡第30次調査　出土遺物観察表１……33
第６表　久留米城下町遺跡第30次調査　出土遺物観察表２……34
第７表　久留米城下町遺跡第30次調査　出土遺物観察表３……35
第８表　久留米城下町遺跡第30次調査　出土遺物観察表４……36
第９表　久留米城下町遺跡第30次調査　出土遺物観察表５……37
第10表　久留米城下町遺跡第30次調査　出土遺物観察表６……38
第11表　久留米城下町遺跡第30次調査　鍛冶関連遺物観察表１……39
第12表　久留米城下町遺跡第30次調査　鍛冶関連遺物観察表２……40

図　版　目　次

図版１　（１）十間屋敷遺跡第11次調査
調査区東側全景（北上空から）
（２）十間屋敷遺跡第11次調査
調査区西側全景（東から）
図版２　（１）ＳＤ７土層断面（南から）
（２）ＳＤ13土層断面（西から）
（３）ＳＤ13・47土層断面（北から）
（４）トレンチ土層断面（北から）
（５）ＳＥ18検出状況（東から）
（６）ＳＫ12土層断面（西から）
（７）ＳＫ17土層断面（南西から）
（８）畝状遺構完掘状況（北から）
図版３　十間屋敷遺跡第11次調査　遺物写真
図版４　（１）久留米城下町遺跡第30次調査
西区全景（東上空から）
（２）久留米城下町遺跡第30次調査
東区全景（西上空から）
図版５　（１）ＳＥ11掘削状況（北から）
（２）ＳＥ20土層断面（南から）
（３）ＳＥ53土層断面（南から）
（４）ＳＫ１土層断面（南西から）
（５）ＳＫ３土層断面（東から）
（６）ＳＫ３完掘状況（北西から）
（７）ＳＫ４完掘状況（北西から）
（８）ＳＫ14土層断面（南西から）
図版６　（１）ＳＫ17完掘状況（西から）
（２）ＳＫ19土層断面（南から）
（３）ＳＫ29完掘状況（北西から）
（４）ＳＫ30土層断面（西から）
（５）ＳＫ30完掘状況・
ＳＥ34掘削状況（北西から）
（６）ＳＫ32土層断面（東から）

（７）ＳＫ 35・37 完掘状況（東から）
（８）ＳＫ 39 完掘状況（南西から）
図版７　（１）ＳＫ 42 完掘状況（南から）
（２）ＳＫ 44 完掘状況（南から）
（３）ＳＫ 48 土層断面（南から）
（４）ＳＫ 49 完掘状況（北西から）
（５）ＳＫ 52 土層断面（南から）
（６）ＳＫ 54 土層断面（西から）
（７）ＳＫ 54 遺物出土状況（北から）
（８）ＳＫ 56 土層断面（南から）
図版８　（１）ＳＫ 56 完掘状況（南西から）
（２）ＳＫ 58 完掘状況（北西から）
（３）ＳＫ 63 土層断面（南から）
（４）ＳＫ 64 完掘状況（北から）
（５）ＳＫ 70 土層断面（西から）
（６）ＳＫ 72 完掘状況（東から）
（７）ＳＫ 73 完掘状況（北から）
（８）ＳＫ 74 完掘状況（北から）
図版９　（１）ＳＫ 75 完掘状況（南から）
（２）ＳＫ 81 掘削状況（東から）
（３）ＳＰ２出土状況（南から）
（４）ＳＰ 50 出土状況（北西から）
（５）ＳＰ 55 出土状況（北東から）
（６）ＳＸ７南側土層断面（西から）
（７）ＳＸ７（北西から）
（８）ＳＸ７炉部分（東から）
図版 10（１）ＳＸ７完掘状況（南から）
（２）ＳＸ 21 土層断面（南東から）
（３）ＳＸ 21 土層断面（東から）
（４）ＳＸ 21 土層断面（南から）
（５）ＳＸ 21 土層断面（西から）
（６）ＳＸ 21 土層断面（北から）
（７）ＳＸ 21 炉検出状況（南東から）
（８）ＳＸ 21 完掘状況（南東から）
図版 11　久留米城下町遺跡第 30 次調査遺物写真１
図版 12　久留米城下町遺跡第 30 次調査遺物写真２
図版 13　久留米城下町遺跡第 30 次調査遺物写真３
図版 14　久留米城下町遺跡第 30 次調査遺物写真４
図版 15　久留米城下町遺跡第 30 次調査遺物写真５
図版 16　久留米城下町遺跡第 30 次調査遺物写真６
図版 17　久留米城下町遺跡第 30 次調査遺物写真７
図版 18　久留米城下町遺跡第 30 次調査遺物写真８
図版 19　久留米城下町遺跡第 30 次調査遺物写真９
図版 20　久留米城下町遺跡第 30 次調査遺物写真 10
図版 21（１）ＳＫ 48 出土鉄滓・羽口・粒状滓・鍛造剥片・石炭
（２）ＳＫ 14 出土石炭
（３）ＳＫ 48 出土石炭
（４）ＳＫ 48 出土粒状滓
（５）ＳＫ 48 出土鍛造剥片

Ⅰ．はじめに

１．調査に至る経緯

本調査は、共同住宅建設に伴う事前の発掘調査である。令和２年９月 29 日、土地所有者の九電不動産株式会社代表取締役平野俊明氏から久留米市日吉町 28 － 12、－ 14、－ 15、－ 16、－ 17、－ 18、通町 104 － 20、－ 21 における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の十間屋敷遺跡および久留米城下町遺跡であり、同年 12 月 22 日の試掘調査においても遺構が残存していたため、発掘調査が必要である旨を回答した。令和３年３月 11 日に発掘調査の依頼が提出され、久留米市長と土地所有者は同年４月９日、十間屋敷遺跡第 10 次調査・久留米城下町遺跡第 30 次調査の協定書と委託契約を取り交わした。

現地での発掘調査は同年４月 19 日に着手し、７月 16 日に終了した。遺物整理と報告書作成は協定書に基づいた委託契約を取り交わし、令和５年３月 31 日まで行った。対象面積 661㎡のうち、調査面積は 404.9㎡（十間屋敷遺跡 265.3㎡、久留米城下町遺跡 139.6㎡）である。

２．調査及び報告書作成にかかる体制

調査委託者：九電不動産株式会社　代表取締役　平野　俊明
調 査 主 体：久留米市教育委員会　　教 育 長：井上　謙介
調 査 総 括：久留米市　市民文化部　部　　長：竹村　政高
次　　長：深堀　尚子
文化財保護課　課　　長：水島　秀雄
課長補佐：久保田由美（令和３年度）、田中　健二（令和４年度）
課長補佐兼主査：白木　　守、丸林　禎彦
主　　査：水原　道範（令和３年度）
小澤　太郎（令和４年度）
事務主査：小澤　太郎（令和３年度）、江島　伸彦
調査担当：長谷川桃子
整理担当（会計年度任用職員）：米澤美詠子、宮﨑　彩香、今村　理恵

会計年度任用職員（発掘調査作業員）
秋永　絹子、案納　哲夫、蒲池　　稔、川原　初美、國武　三歳、黒岩　秀則、田中とし子、中村　麻衣、原　　博文、原口　貞子、平田　広之、堀江　俊文、松尾　朱美、溝口　輝男、矢野　崇徳、山田　治代、横山　満浩

会計年度任用職員（出土品整理作業員）
大津山　恵津子、江口　里織、野口　晴香、野間口　靖子

３．調査の経過

敷地の中央を東西に流れる溝の南側に建設予定の共同住宅（十間屋敷遺跡）と北側に建設予定の２棟の立体駐車場（久留米城下町遺跡）に分けて調査を行った。調査の目的は、近世の遺構の広がりを確認することにあった。令和３年４月 19 日、ユニットハウス・簡易水洗トイレを搬入し、調査を開始した。翌 20 日から 21 日まで十間屋敷遺跡東側部分の表土剥ぎを行い、その後遺構検出・遺構掘削・遺構測量・個別遺構写真の撮影を行った。５月 10 日にスカイマスターを使用し、十間屋敷遺跡東側の全景写真を撮影した。翌 11 日はＳＥ 18 の石組を実測し、14 日は東側部分の埋め戻しと西側部分の表土剥ぎを行った。19 日まで検出・遺構掘削・遺構測量を行い、西側部分の全景写真を撮影した。5 月 22 日に西側部分の埋め戻しを行い、十間屋敷遺跡の調査を終了した。同日、久留米城下町遺跡の西区の表土剥ぎを行った。25 日から順次遺構検出・遺構掘削・遺構測量・遺構実測図作成を行い、6 月 17 日にスカイマスターを使用して、西区の全景撮影を行った。23 日まで、ＳＸ 21 やその他の図面作成や遺構測量・遺構写真撮影などの補足調査を行い、24 日に西区の埋め戻しと東区の表土剥ぎを行った。その後、東区の検出・遺構掘削・遺構測量・個別遺構写真・個別遺構実測を行い、７月 13 日にスカイマスターを使用して、東区の全景写真を撮影した。15 日に埋め戻しを、16 日に器材の撤収を行い、全ての調査を終了した。

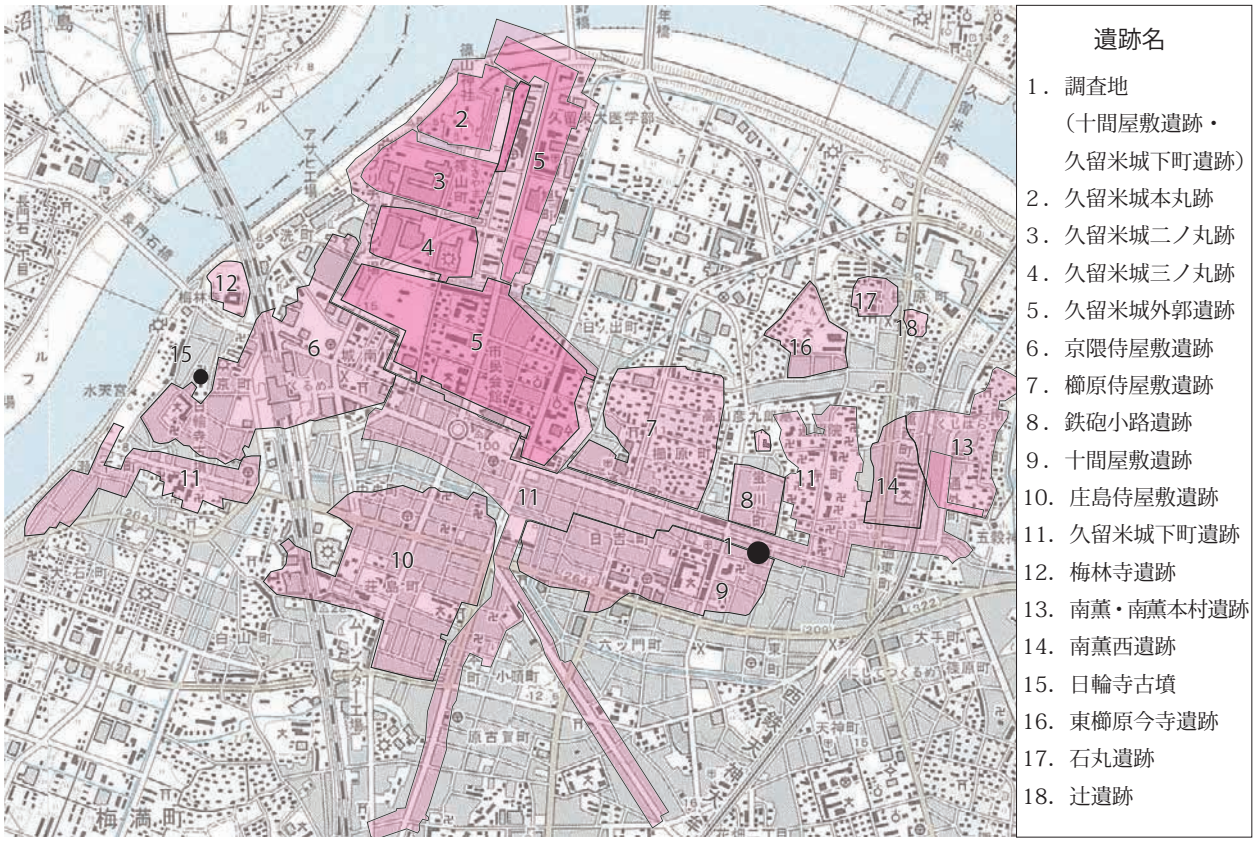
Ⅱ．　位置と環境

久留米市は、筑後川の中・下流域にあたり、筑紫平野の中央に位置する。この中央部は、背振山地から派生する丘陵と耳納山地から派生する段丘が東西両側から突出する部分で、筑後川を挟んで地峡部を成す。この地峡部の南東側の段丘頂部に久留米城が位置する。

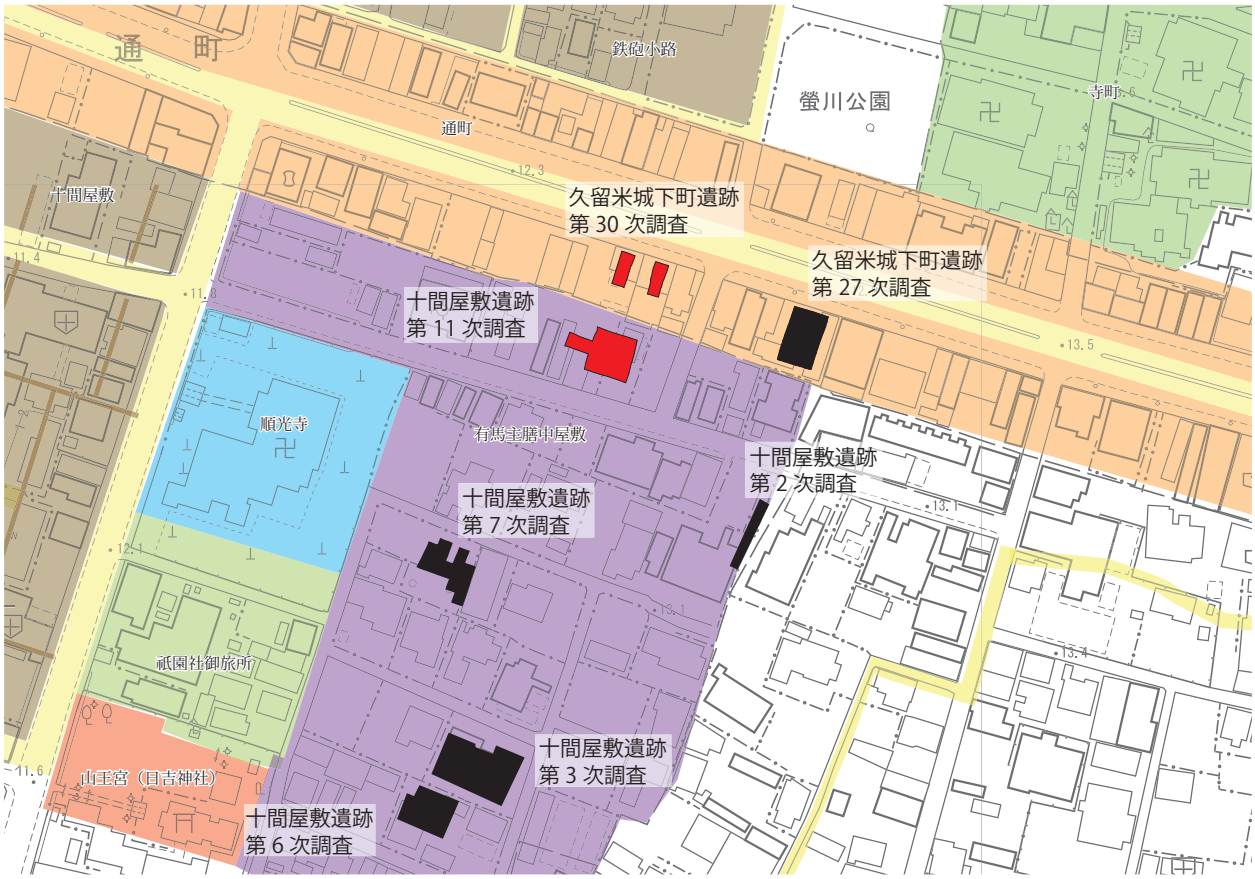
現在の久留米市中心市街地の街並みは、久留米城下の町割りを踏襲している。その町割りの起源となったのは、おおよそ室町時代と考えられる。それ以前の旧石器時代から古代までの人々の足跡は、久留米城と城下町の大規模な造成・削平によって判然としない。

周辺の遺跡で発見された最も古い遺物は、久留米城外郭遺跡第 19 次調査で出土した旧石器時代のナイフ形石器である。弥生時代になると、東櫛原今寺遺跡、石丸遺跡、辻遺跡などの低位段丘上に竪穴建物や甕棺墓群が営まれている。また、久留米城外郭遺跡や京隈侍屋敷遺跡においても、竪穴建物や甕棺墓が確認されている。古墳時代には、低位段丘の西端に日輪寺古墳が位置している。５世紀末から６世紀初頭に築造された前方後円墳で、横穴式石室の石障には線刻による装飾が施されている。奈良時代、当地は御井郡節原郷に比定されており、その中心的な集落と考えられる南薫西遺跡では、掘立柱建物群や墨書土器が確認されている。城下町造成以前の中世では、京隈侍屋敷遺跡で溝等が確認されている。

戦国時代、高良山勢力の出城として久留米城が造営された。高良山座主の弟・麟圭が久留米城を拠点とし、天正 11 年（1583）頃には龍造寺方と結んで座主良寛や大友方と対峙したとされる。



第１図　調査地点と周辺の遺跡分布図（1/25,000）



第２図　調査地点の位置と周辺地形図（1/2,500）

天正 15 年（1587）には、豊臣秀吉の九州国割に伴って小早川秀包が久留米城に入城する。秀包はキリシタン教会を建設した。久留米城下町遺跡第２次調査（両替町遺跡）で検出された掘立柱建物はその教会跡と考えられている。また、久留米城の東には城下町が広がり、呉服町・紺屋町・魚屋町などの町がこの頃からあったとみられる。

慶長６年（1601）に田中吉政が筑後国に入国した。吉政は柳河城を居城とし、久留米城には二男主膳正吉信を配置したとされる。吉政は、柳河城と久留米城を結ぶ、のちに柳川往還と呼ばれる新道を整備した。

田中家は２代忠政が無嫡子のまま死去し、改易となったため、元和７年（1621）に有馬豊氏が丹波福知山より転封となり、久留米城に入城した。その後、城郭・侍屋敷・町屋の建設が進められた。城下には４つの侍屋敷が造成された。そのうちの一つ、十間屋敷は通町筋の南側に位置する。「寛永十三年西久留米の内十間屋敷に大神宮建立」（『石原家記』）とあること、正保３年（1646）に順光寺が建立、翌４年（1647）に祇園社御旅所が寄進されていることから、寛永 13 年（1636）から十間屋敷の建設が始まり、正保４年（1647）に完成したとみられる（古賀 2018）。城下町の東西を結ぶ道に沿って町屋が並ぶ長町（のちの通町）は、有馬氏入城前に四丁目まで形成されていた。寛永元年（1624）には五丁目より東に町が建ち始め、正保３年（1646）に十丁目まで町屋が建設された。延享３年（1746）には通外町が建設された。

十間屋敷第 11 次調査地は、久留米藩家老有馬主膳の中屋敷の北部にあたる。文久３年（1863）以降、中屋敷の南側約 15,000㎡には江戸から帰国した藩士のための侍屋敷 20 軒が新設されたが、調査地は中屋敷として存続している。

久留米城下町遺跡第 30 次調査地は、「延宝八年絵図」では長町六丁目、「伝元禄十四年製之古図」では長町六丁目、「天保年間絵図」では通町四丁目、「明治五年通町絵図」では長町（通町）六丁目にあたる。長町（通町）六丁目は、寛永元年（1624）に建設が始まり、寛永 18 年（1641）には成立した町である（古賀　2018）。「明治五年絵図」の中で調査地がどこにあたるのかについては断定できないが、内田與平氏が鋳物・金物商を営んでいたことが指摘されている（古賀　2018）。なお、調査地の約 50 m東には第 27 次調査地が所在する。第 27 次調査では、18 世紀前半から幕末にかけての鉄滓約 500kg や鉄製品が出土し、鍛錬鍛冶を行ったとされている。

【参考文献】

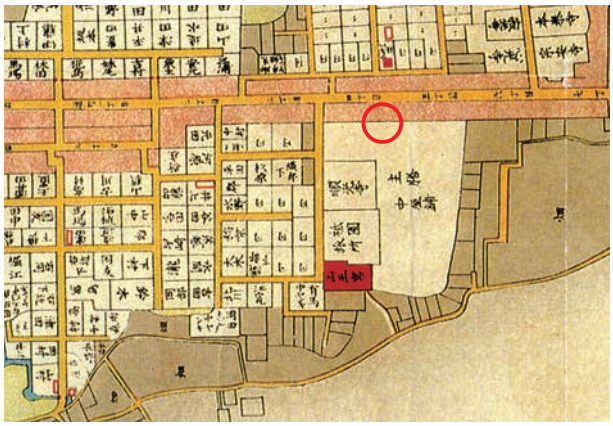
古賀正美　2018 『久留米城とその城下町』 海鳥社

江頭俊介　2019 『久留米城下町遺跡第 27 次調査報告』 久留米市文化財調査報告書第 407 集

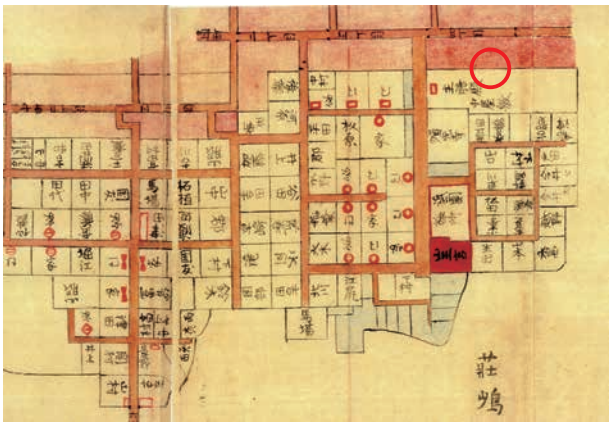
鈴木瑞穂・江頭俊介　2021 「第５章　久留米城下町遺跡第 27 次調査（鉄滓分析編）」『久留米市埋蔵文化財調査集報二十一』 久留米市文化財調査報告書第 429 集

延寶八年久留米市街図（1680 年）

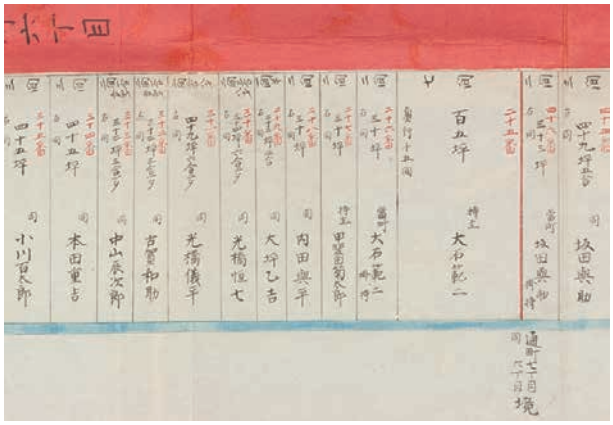
伝元禄十四年製之古図（1701 年カ）



天保年間久留米城下図（1830 ～ 1844 年）



明治二年旧郭図（1869 年）



明治五年通町絵図（1872 年）

明治二十五年久留米市明細図（1892 年）

○は、調査地の位置を表す

※明治五年通町絵図での、調査地の位置は不明確である

第３図　絵図からみた調査区の位置（縮尺任意）

Ⅲ．十間屋敷遺跡第 11 次調査

１．検出遺構

近世の溝、井戸、土坑、時期不明の畝状遺構を検出した。

溝

ＳＤ７（第５図、図版２）

調査区中央で検出した溝である。軸はＮ－ 20°－Ｅである。長さは 10.9 m以上で、北側は調査区外に延びる。上端幅 0.7 m、深さ 0.1 mを測る。断面はＵ字形である。19 世紀代に属する。

ＳＤ 13（第５図、図版２）

調査区中央で検出した溝である。北から南へ 12 mのところで直角に東へ曲がる。長さは 19 m以上で、北側は調査区外に延び、東側は撹乱によって破壊されていた。上端幅 1.1 m、深さ 0.5 mを測る。上層（１・２層）と下層（３・４層）に大別できる。上層は 17 世紀から幕末までの近世陶磁器などが出土しているが、下層は 17 世紀から 18 世紀中頃までの近世陶磁器などの出土に限られることから、18 世紀中頃に一度埋没し、最終的に幕末に廃絶したと推測される。

ＳＤ 47（第５図、図版２）

調査区中央で検出した溝である。当初ＳＤ 13 と同一遺構として掘削したが、トレンチの土層の観察の結果、別遺構であることが分かった。ＳＤ 13 に後出し、西側の畝状遺構に先行する。長さは 8.7 mである。上端幅 0.3 m、深さ 0.4 mを測る。断面はＵ字形である。19 世紀代に属する。

井戸

ＳＥ 18（第５図、図版２）

調査区中央部で検出した円形の井戸である。ＳＤ 13・ＳＫ 12・16・畝状遺構に後出する。直径 1.2mを測る。埋め戻し時に重機による断ち割りを行い、深さ 3.7 mで底面が確認できた。上面から 40㎝の深さでテラス部分があり、石列が一段認められた。なお、南東部分は石列がみられない。遺物は、18 世紀から幕末にかけての近世陶磁器が出土しているが、一部コバルト呉須の型紙摺りの磁器も出土していることから、使用年代の上限は 18 世紀代、廃絶は明治期と推定される。

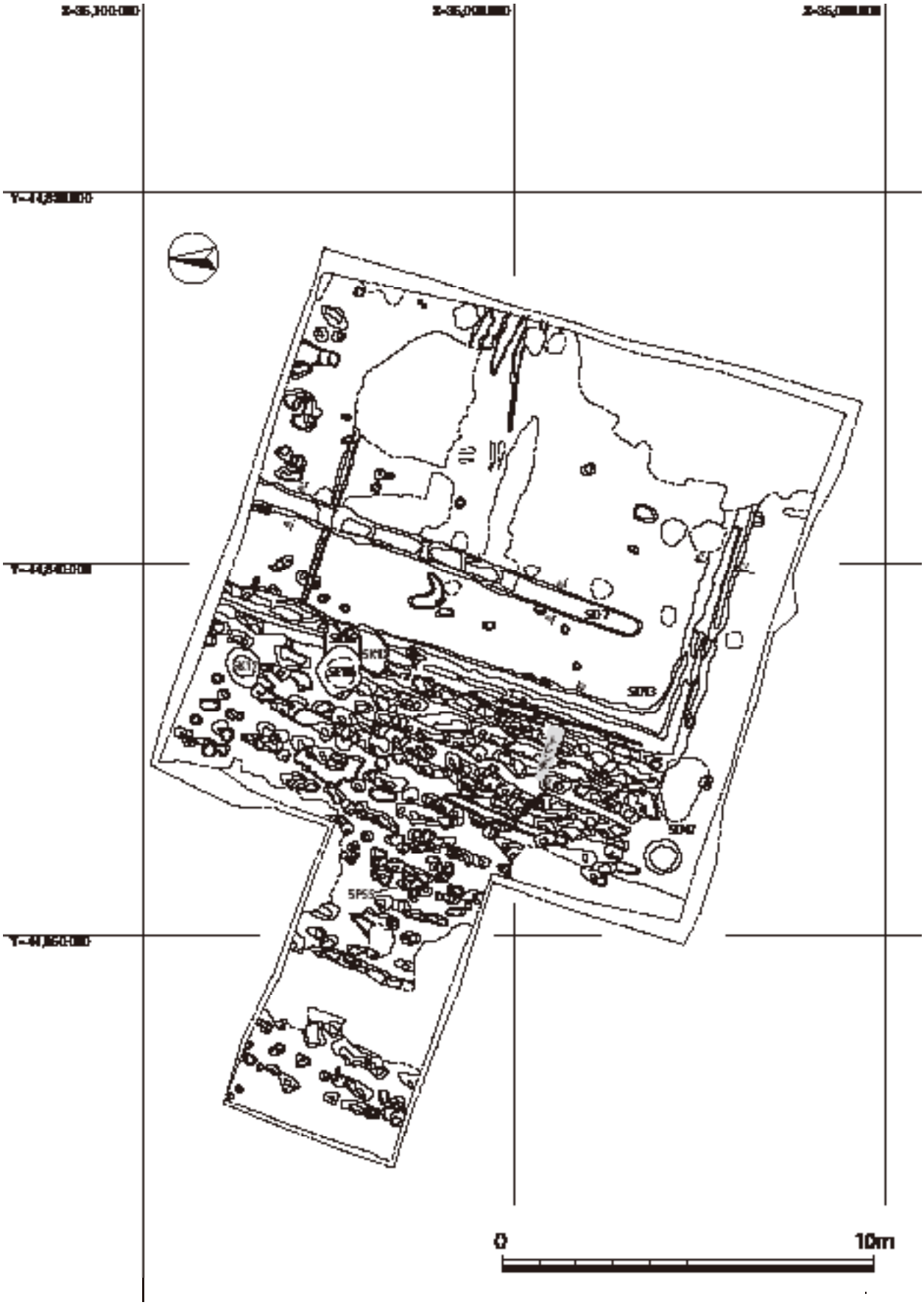
土坑

ＳＫ 12（第５図、図版２）

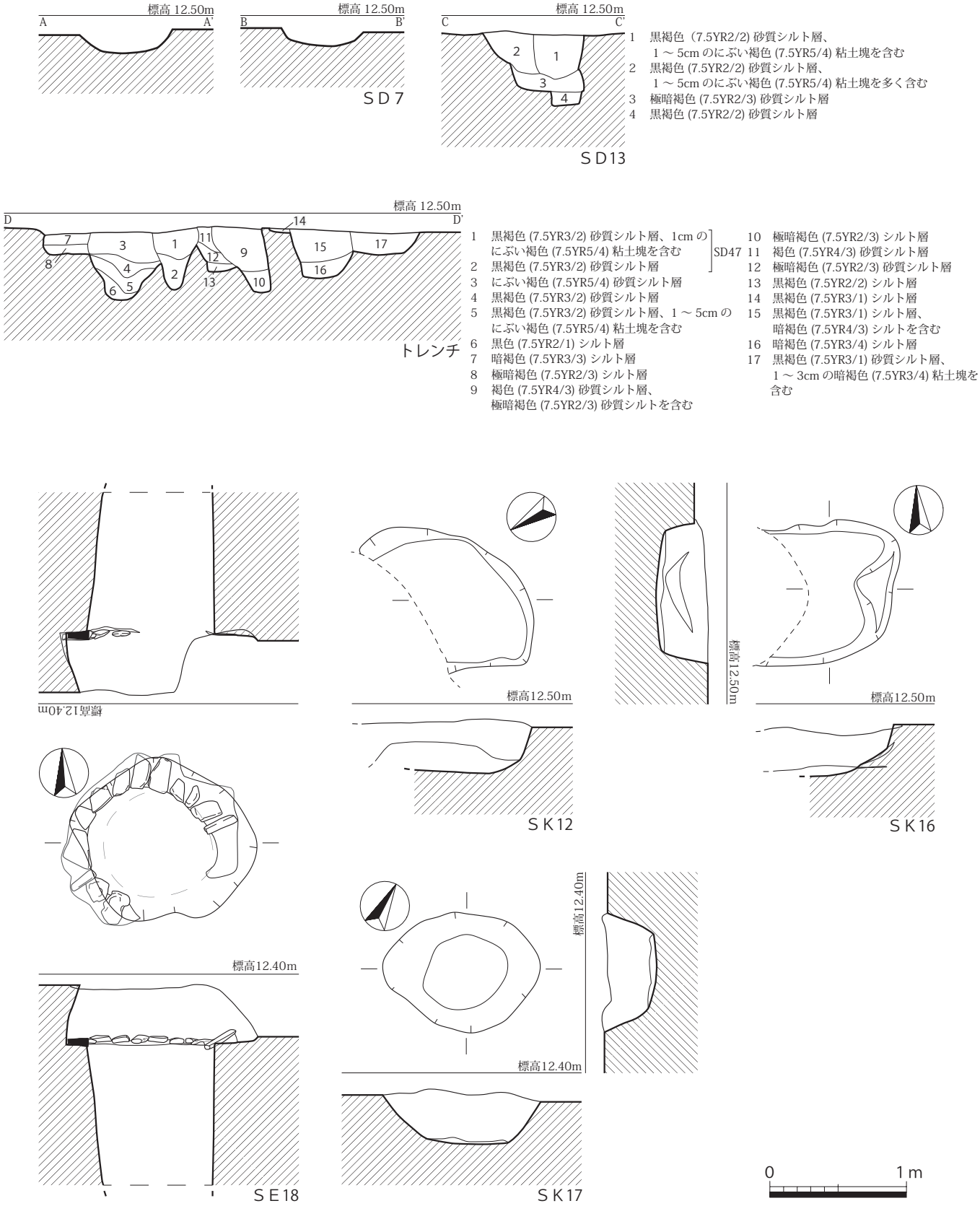
調査区西部で検出した楕円形の土坑である。ＳＤ 13 に後出し、ＳＥ 18・ＳＫ 16 に先行する。残存部分の規模は、長軸 0.9m、短軸 0.8m、深さ 0.3m を測る。19 世紀前半に属する。

ＳＫ 16（第５図、図版２）

調査区西部で検出された楕円形の土坑である。ＳＤ 13・ＳＫ 12 に後出し、ＳＥ 18 に先行する。残存部分の規模は、長軸 1.0 m、短軸 0.6m、深さ 0.4m を測る。19 世紀代に属する。



第４図　十間屋敷遺跡第 11 次調査　遺構配置図（1/150）



第５図　ＳＤ７・13、トレンチ、ＳＥ 18・ＳＫ 12・16・17 実測図（1/40）

ＳＫ 17（第５図、図版２）

調査区西部で検出された楕円形の土坑である。畝状遺構に先行する。遺構の規模は、長軸 1.1 m、短軸 0.8 m、深さ 0.3 mを測る。近世陶磁器や近代磁器の細片が出土しており、近代に属する。

畝状遺構（図版２）

調査区西部の幅 10 mにわたって畝状遺構が確認された。一条の幅は 40㎝程度で、遺構によって長さは 40㎝～７ mと異なる。埋土は、①暗褐色砂質シルト＋黒色砂質シルト②褐色砂質シルト混じりの黒色砂質シルト③黒色砂質シルト混じりの褐色砂質シルトの３つに大別できたが、輪郭は明瞭ではなかったため、畝の長さを正しく捉えられなかった可能性がある。深さは 10 ～ 50㎝で、擂鉢状にすぼまる遺構もあった。遺構には近世・近代陶磁器の細片がごくわずかに含まれたが、正確な時期は不明である。なお、ＳＰ 55 からコバルト呉須を用いた型紙摺りの磁器が出土している。

２．出土遺物

パンコンテナ―２箱分の遺物が出土した。法量などの詳細については、第１表を参照願いたい。

３．総括

今回の調査では、溝４条と井戸１基、土坑３基、時期不明の畝状遺構を確認した。時期は 19 世紀から近代が主体であり、全体的に近世の遺構は希薄である。ＳＤ 13 には 17 世紀代の遺物が含まれているが、使用開始の下限は、下層が埋没した 18 世紀中頃と考えられるだろう。その後ＳＤ 13 は幕末で廃絶する。第２次調査の成果と絵図との照合によって、18 世紀前半に有馬主膳中屋敷が成立したとされており（註１）、ＳＤ 13 は中屋敷に伴う溝と考えられる。

有馬主膳中屋敷にあたる場所では、十間屋敷遺跡第２・３・６・７次調査が行われた。これまでの調査でも、近世の遺構は希薄であることが分かっている。第３・６・７次調査は中屋敷の南部にあたり、裏庭部分に相当する可能性や空閑地としての利用が指摘されていた（註２）。しかし、北部にあたる今回の調査地でも、近世の遺構が希薄であることには変わらず、中屋敷全体が空閑地として広がっていた可能性が指摘できる。

調査地西側に広がる畝状遺構にはほとんど遺物が含まれていない。ただし、ＳＰ 55 に含まれた磁器の細片は、近代の所産であることを示すものではあるが、畝状遺構全体が近代の所産であるとは断定できない。なお、「明治 25 年久留米市明細図」では、調査地周辺は畑地となっている。

註１　水原道範　2007 『十間屋敷遺跡－第２次調査－』久留米市文化財調査報告書第 242 集
註２　白木守　2007 『十間屋敷遺跡－第３次調査－』久留米市文化財調査報告書第 255 集
　　江頭俊介　2017 『十間屋敷遺跡－第７次調査報告－』久留米市文化財調査報告書第 389 集

第１表　十間屋敷遺跡第 11 次調査　出土遺物観察表

遺物番号	図版番号	遺構	材質	器種	法量			染付釉薬色調	装飾・調整		見込み	底面・高台内印銘	備考	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）		外面	内面				
1	図版３	SD7	磁器	段重	-	-	(2.0)	色絵	草				19c	202106000014
2	図版３	SD13	陶器	皿	(12.4)	-	(3.0)	灰					上層、溝縁皿、17c	202106000017
3	図版３	SD13	磁器	碗	(8.0)	-	(3.9)	染付	圏線・東屋・山水				上層、18c 前半	202106000008
4	図版３	SD13	磁器	碗	(11.2)	-	(5.6)	染付	二重圏線・草花				上層、18c 前半	202106000013
5	図版３	SD13	磁器	碗	(12.6)	-	(4.7)	染付	二重圏線・草花	圏線			上層、18c 中頃	202106000009
6	図版３	SD13	磁器	碗	(8.2)	-	(4.0)	染付	圏線・草	四方襷			上層、円筒碗、19c	202106000016
7	図版３	SD13	磁器	碗	(9.2)	-	(4.8)	染付	柳・梅花	四方襷	二重圏線		上層	202106000010
8	図版３	SD13	磁器	碗	-	(6.0)	(4.1)	白磁					上層	202106000014
9	図版３	SD13	磁器	盃	(6.4)	(3.4)	4.1	染付	岩				上層	202106000015
10	図版３	SD13	陶器	行平蓋	(14.2)	-	(2.7)	褐	回転ナデ・飛び鉋	回転ナデ			上層、19c	202106000018
11	図版３	SD13	陶器	擂鉢	-	-	(6.0)	鉄	ナデ	擂目・ナデ			上層	202106000011
12	図版３	SD13	磁器	碗	-	-	(3.9)	染付	二重圏線・柳				下層、18c 前半	202106000019
13	図版３	SD13	磁器	碗	-	-	(3.3)	染付	草花				下層、18c 前半	202106000021
14	図版３	SD13	磁器	皿	-	(2.7)	(1.6)	染付			花卉	砂粒付着	下層	202106000025
15	図版３	SD13	磁器	皿	-	(9.0)	(2.2)	染付	圏線		草	変形字・ハリ痕	下層、18c 中頃	202106000027
16	図版３	SD13	磁器	唾壺	-	3.0	(3.2)	白磁					下層	202106000023
17	図版３	SD13	陶器	碗	(11.0)	-	(4.4)	灰					下層、口紅	202106000032
18	図版３	SD13	陶器	碗	-	5.3	(3.9)	灰					下層	202106000033
19	図版３	SD13	陶器	皿	-	-	(1.6)	灰					下層、溝縁皿、17c	202106000034
20	図版３	SD13	陶器	皿	-	5.2	(3.1)	灰			蛇ノ目釉剥ぎ	露胎	下層、18c 前半	202106000035
21	図版３	SD13	陶器	鉢	(13.6)	(8.8)	7.1	褐					下層	202106000036
22	図版３	SD13	土師器	焙烙	-	-	(5.4)	橙	ナデ	ナデ			下層	202106000037
23	図版３	SD47	磁器	碗	-	4.0	(1.9)	染付	氷裂		二重圏線・変形字	二重圏線	19c	202106000054
24	図版３	SE18	磁器	碗	-	-	(3.8)	染付	根引き松		岩波		18c 中頃	202106000041
25	図版３	SE18	磁器	皿	-	(8.0)	(2.3)	白磁		菊花（型押）	ハマ痕	蛇ノ目凹型高台	19c 後半	202106000046
26	図版３	SE18	磁器	角皿	-	-	3.4	染付	蛸唐草	草		雷文		202106000049
27	図版３	SE18	磁器	小皿	(9.2)	5.1	2.5	染付	山・花				墨弾き、輪花	202106000051
28	図版３	SE18	磁器	皿	-	(10.4)	3.5	染付	圏線	弧状地	松・圏線	圏線・「化年」	19c	202106000052
29	図版３	SE18	磁器	不明	-	-	(1.8)	染付		草花			型紙摺り、コバルト呉須	202106000043
30	図版３	SE18	陶器	蓋	5.7	4.2	(2.1)	透明・白	梅	露胎			19c	202106000044
31	図版３	SK12	磁器	碗	-	-	(3.5)	染付	雪輪	二重圏線				202106000003
32	図版３	SK12	磁器	碗	-	-	(2.2)	染付	山水					202106000004
33	図版３	SK12	磁器	蓋物	(6.2)	-	(1.6)	染付	草					202106000002
34	図版３	SK12	磁器	香炉	-	-	(2.2)	染付	瓔珞文				18c 後半	202106000005
35	図版３	SK16	陶器	蓋	-	-	(3.5)	褐	飛び鉋	ナデ			19c、行平鍋	202106000040
36	図版３	SP55	磁器	碗	-	-	(3.3)	染付	草花				型紙摺り、コバルト呉須	202106000057

Ⅳ．久留米城下町遺跡第 30 次調査

１．検出遺構

近世の井戸４基、土坑 48 基、鍛冶炉２基、ピット多数を検出した。なお、鍛冶に関連すると考えられた遺構の埋土は、一部もしくは全量を持ち帰り、水洗している。詳細は第２表を参照されたい。

井戸

ＳＥ 11（第８図、図版５）

西区で検出された素掘りの井戸である。ＳＫ４・ＳＸ７に先行する。直径 1.0 m、1.52 m以上を測る。深さ 1.3 mを測る。17 世紀前半に属する。

ＳＥ 20（第８図、図版５）

西区で検出された素掘りの井戸である。ＳＫ３に先行し、ＳＫ 40・ＳＸ 21 に後出する。直径 1.0 m、深さ 1.48 m以上を測る。18 世紀中頃に属する。

ＳＥ 34（第８図、図版６）

西区で検出された素掘りの井戸である。ＳＫ 30 に先行するとみられるが、ＳＫ 30 と一体の遺構である可能性もある。直径 0.8 m、深さ 1.0 m以上を測る。18 世紀前半に属する。

ＳＥ 53（第８図、図版５）

東区で検出された素掘りの井戸である。ＳＫ 54 に先行する。直径 1.4 m、深さ 1.5 m以上を測る。２層と８層の間に地山が残っており、幅 20cm 程度のテラス状を呈していた。18 世紀後半に属する。

土坑

ＳＫ１（第９図、図版５）

西区で検出された楕円形の土坑である。ＳＫ 13 に後出する。長軸 1.1 m、短軸 0.8 m、深さ 0.2 mを測る。18 世紀後半に属する。

ＳＫ３（第９図、図版５）

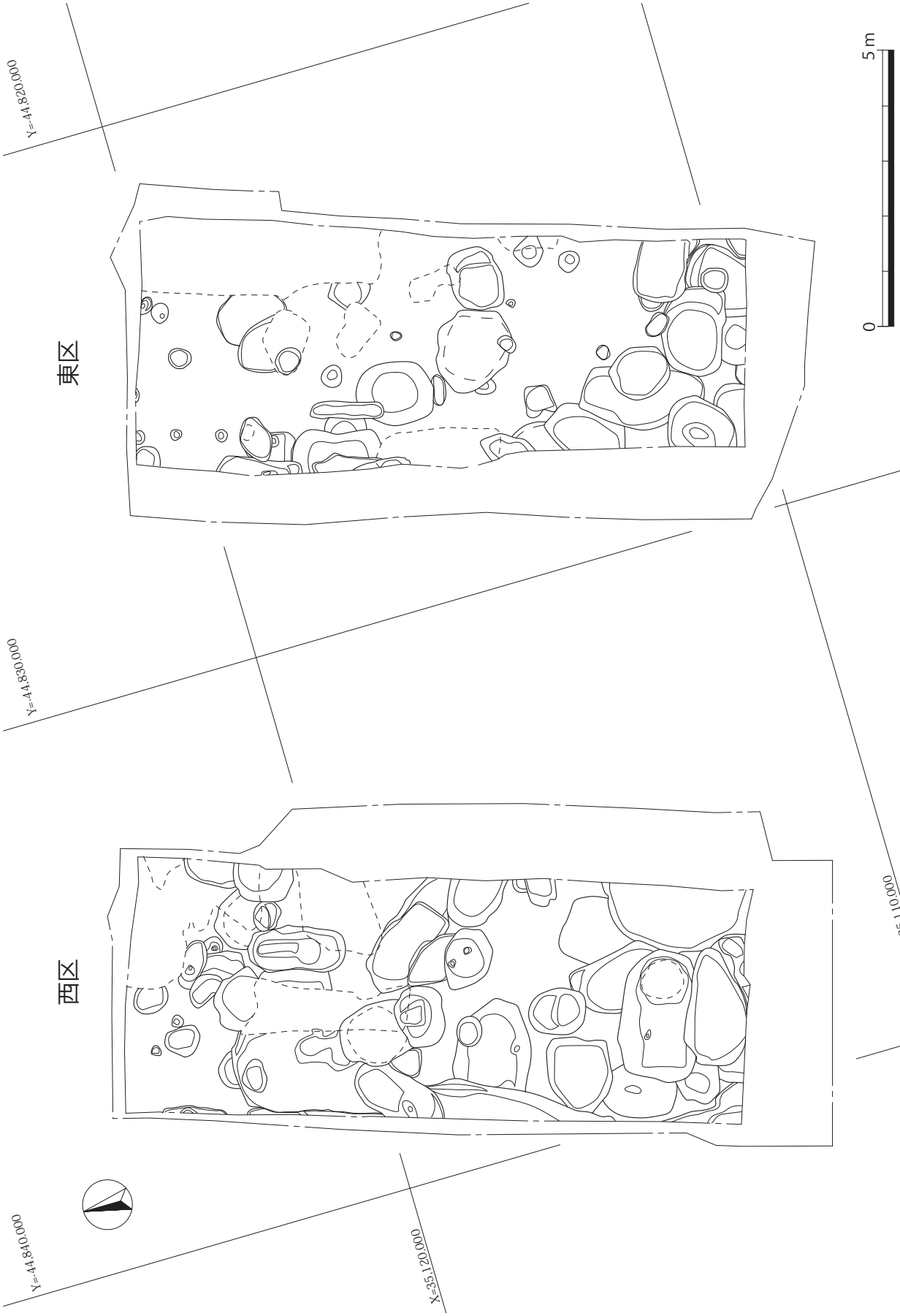
西区で検出された楕円形の土坑である。ＳＥ 20 に後出する。長軸 1.1m、短軸 0.8m、深さ 0.8 mを測る。出土遺物は染付碗の細片や鉄滓に限られるが、先行するＳＥ 20 が 18 世紀中頃に属するため、18 世紀中頃以降に属する。

ＳＫ４（第９図、図版５）

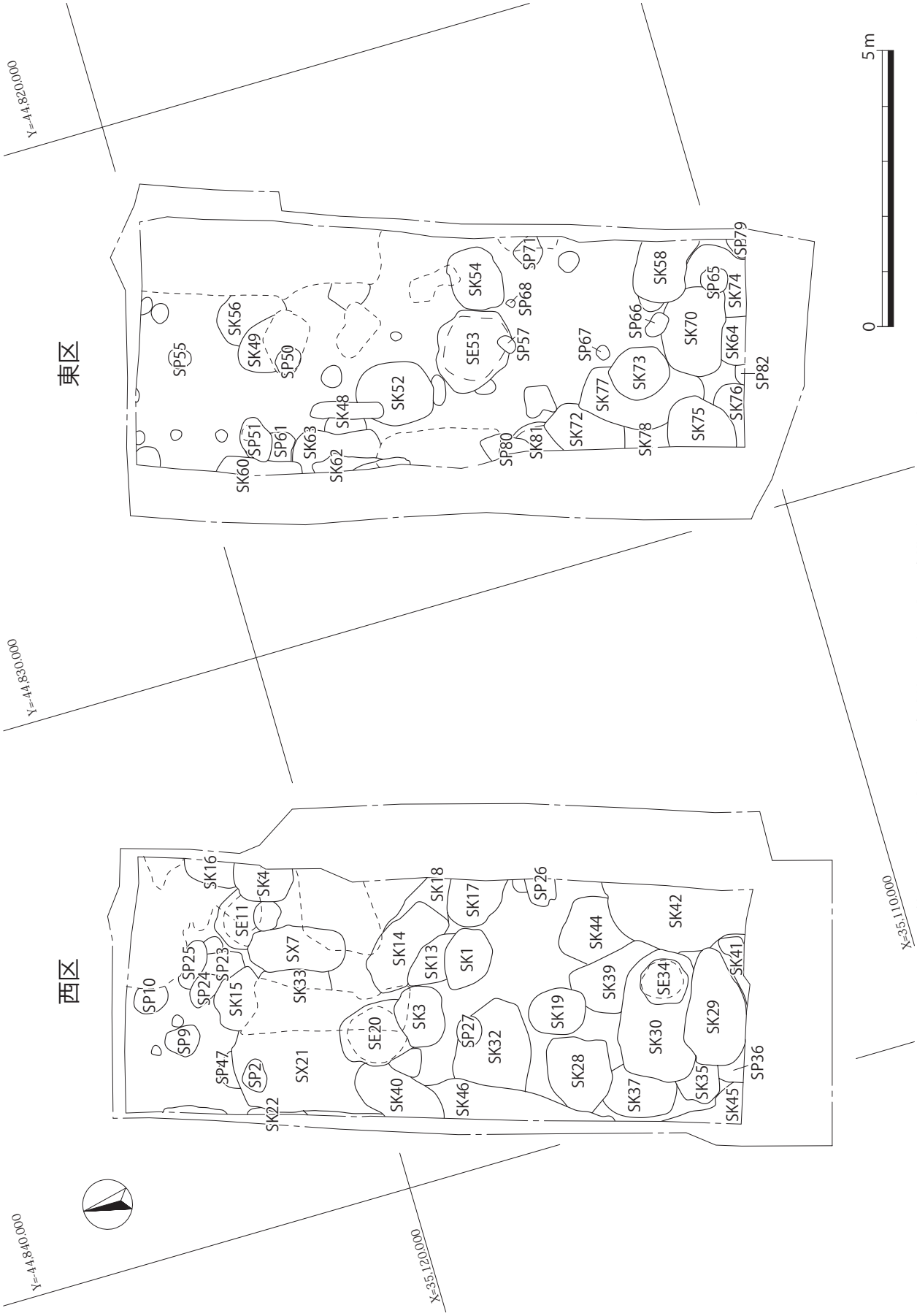
西区で検出された円形の土坑である。ＳＥ 11・ＳＫ 16 に後出する。遺構の大半が東へと延びるため、全体の規模は不明であるが、残存部分の長軸 1.0 m、短軸 0.6 m、深さ 0.7 mを測る。18 世紀後半に属する。

ＳＫ 13（第９図）

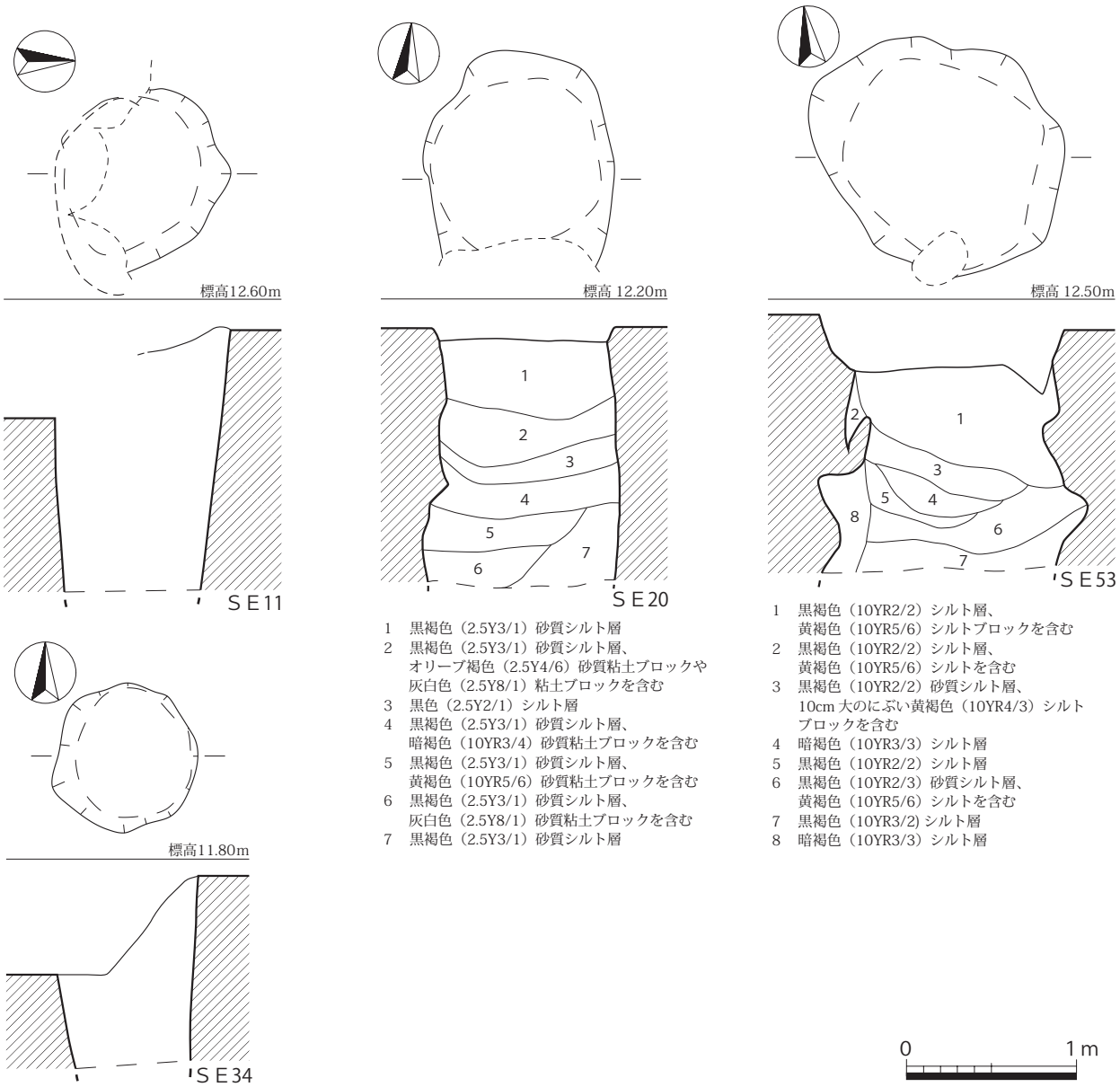
西区で検出された楕円形の土坑である。ＳＫ１に先行し、ＳＫ 14 に後出する。長軸 0.8 m、短軸 0.7 m、深さ 0.1 mを測る。出土遺物から遺構の時期は分からなかったが、先行するＳＫ 14 が



第６図　久留米城下町遺跡第 30 次調査　遺構配置図（1/100）



第７図　久留米城下町遺跡第 30 次調査　遺構番号図（1/100）



第８図　ＳＥ 11・20・34・53 実測図（1/40）

18 世紀前半、後出するＳＫ１が 18 世紀後半に属するため、18 世紀前半から後半の間に属する。

ＳＫ 14（第９図、図版５）

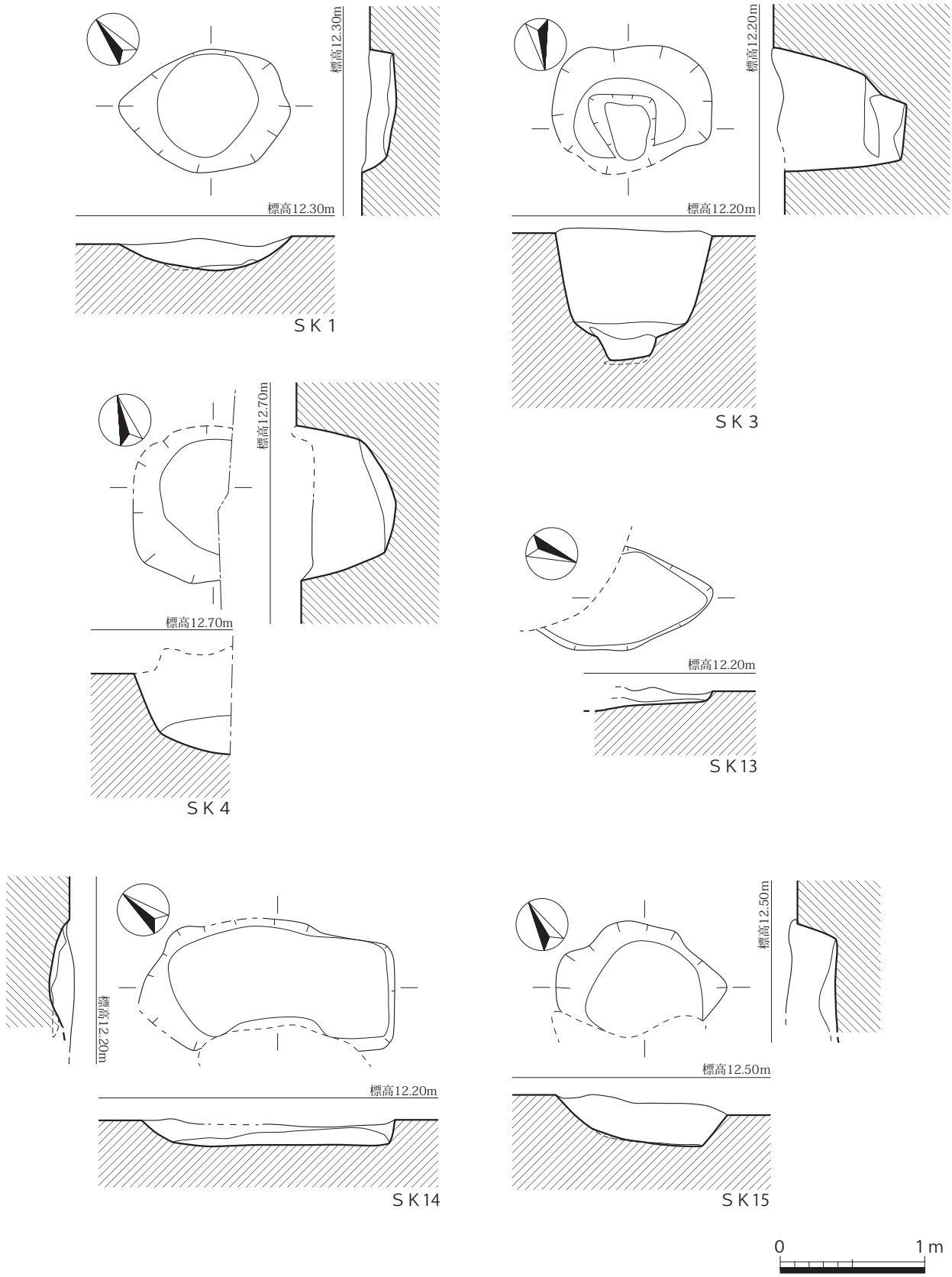
西区で検出された楕円形の土坑である。ＳＫ 13 に先行し、ＳＫ 18 に後出する。長軸 1.7 m、短軸 0.7 m、深さ 0.1 mを測る。石炭が出土しており、埋土の一部である 990g を洗浄し、そのうち石炭が 85.2 g 確認できた。18 世紀前半に属する。

ＳＫ 15（第９図）

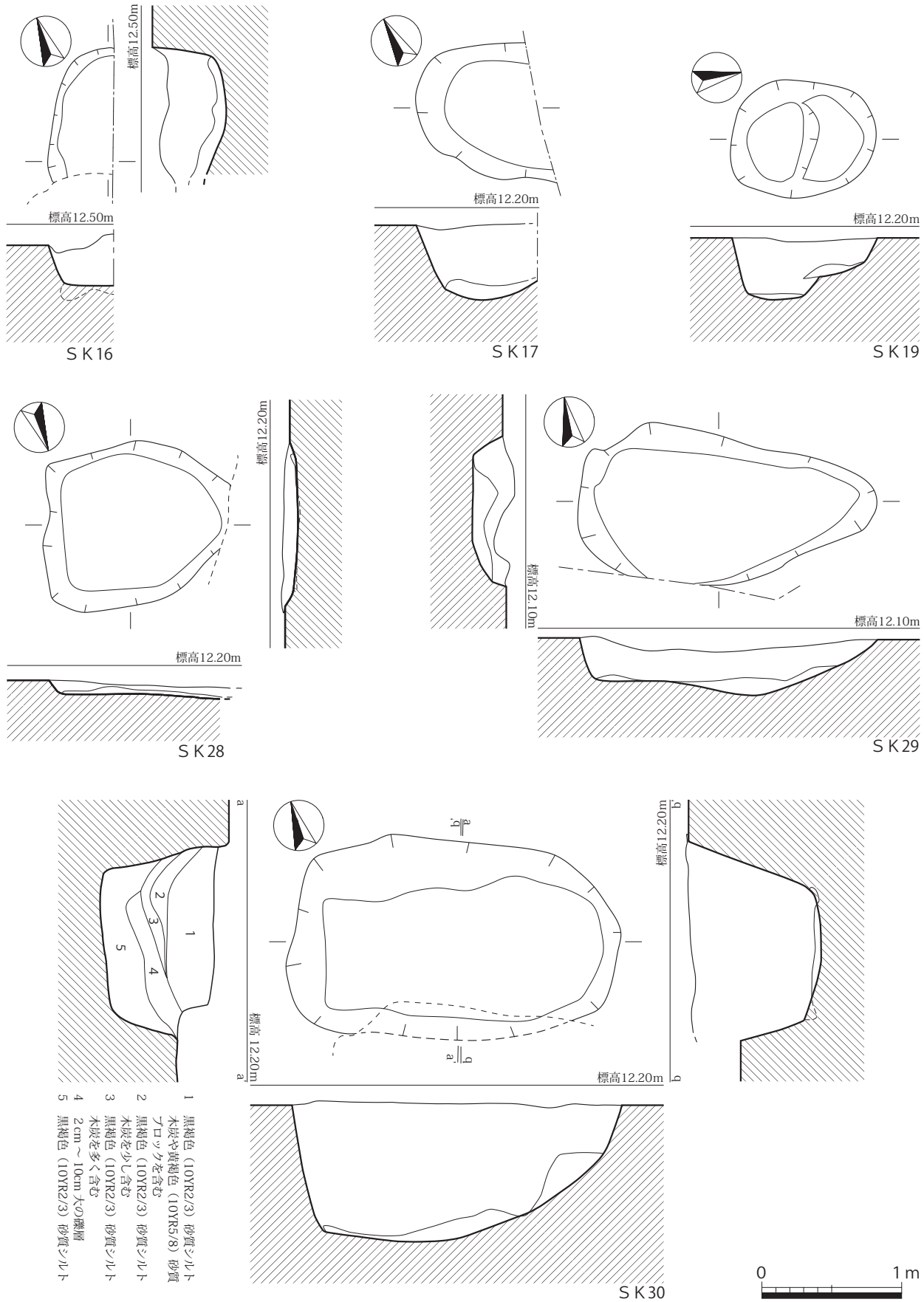
西区で検出された円形の土坑である。ＳＰ 23・24 に後出するが、撹乱によって南側は破壊されていた。残存部分の規模は、長軸 1.1 m、短軸 0.7 m、深さ 0.2 mを測る。18 世紀前半に属する。

ＳＫ 16（第 10 図）

西区で検出された土坑である。ＳＫ４に先行する。ＳＫ４に南側が破壊され、遺構の東部分は調



第９図　ＳＫ１・３・４・13～15 実測図（1/40）



第 10 図　ＳＫ 16・17・19・28 ～ 30 実測図（1/40）

査区外へ広がるため、全体の規模や形状は不明である。残存部分の規模は、長軸 0.9 m、短軸 0.4 m、深さ 0.3 mを測る。18 世紀前半に属する。

ＳＫ 17（第 10 図、図版６）

西区で検出した楕円形の土坑である。ＳＫ 18 に後出する。遺構は調査区の東へと広がるため、全体の規模は不明であるが、長軸 0.8 m、短軸 0.9 m、深さ 0.5 mを測る。18 世紀前半に属する。

ＳＫ 19（第 10 図、図版６）

西区で検出した楕円形の土坑である。ＳＫ 39 に後出する。長軸 1.0 m、短軸 0.8 m、深さ 0.4 mをはかる。北側に 1 段のステップを有する。18 世紀前半に属する。

ＳＫ 28（第 10 図）

西区で検出した楕円形の土坑である。ＳＫ 46 に先行し、ＳＫ 37 に後出する。長軸 1.2 m、短軸 1.1 m、深さ 0.1 mを測る。18 世紀前半に属する。

ＳＫ 29（第 10 図、図版６）

西区で検出した楕円形の土坑である。検出時、ＳＫ 30･35･36･41･42 に後出すると考えていたが、ＳＫ 30 には先行することが遺物整理の結果判明した。長軸 2.1 m、短軸 1.0 m、深さ 0.3 mを測る。18 世紀中頃に属する。

ＳＫ 30（第 10 図、図版６）

西区で検出した隅丸方形の土坑である。ＳＫ 29 に先行し、ＳＥ 34・ＳＫ 35 ～ 37・39・42 に後出する。ただし、ＳＥ 34 と同一遺構である可能性もある。長軸 2.3 m、短軸 1.4 m、深さ 0.9 mを測る。底面は、西から 1 m付近までは水平であるが、東へ向かって上がる。揃いの磁器碗や皿の他、とんぼ玉やガラス製品が出土している。18 世紀後半に属する。

ＳＫ 32（第 11 図、図版６）

西区で検出した楕円形の土坑である。ＳＰ 27・46 に先行する。長軸 2.0 m、短軸 1.3 m、深さ 0.6 mを測る。東側に 1 段のステップを有する。鉄滓が大量に出土している。17 世紀後半に属する。

ＳＫ 35（第 11 図、図版６）

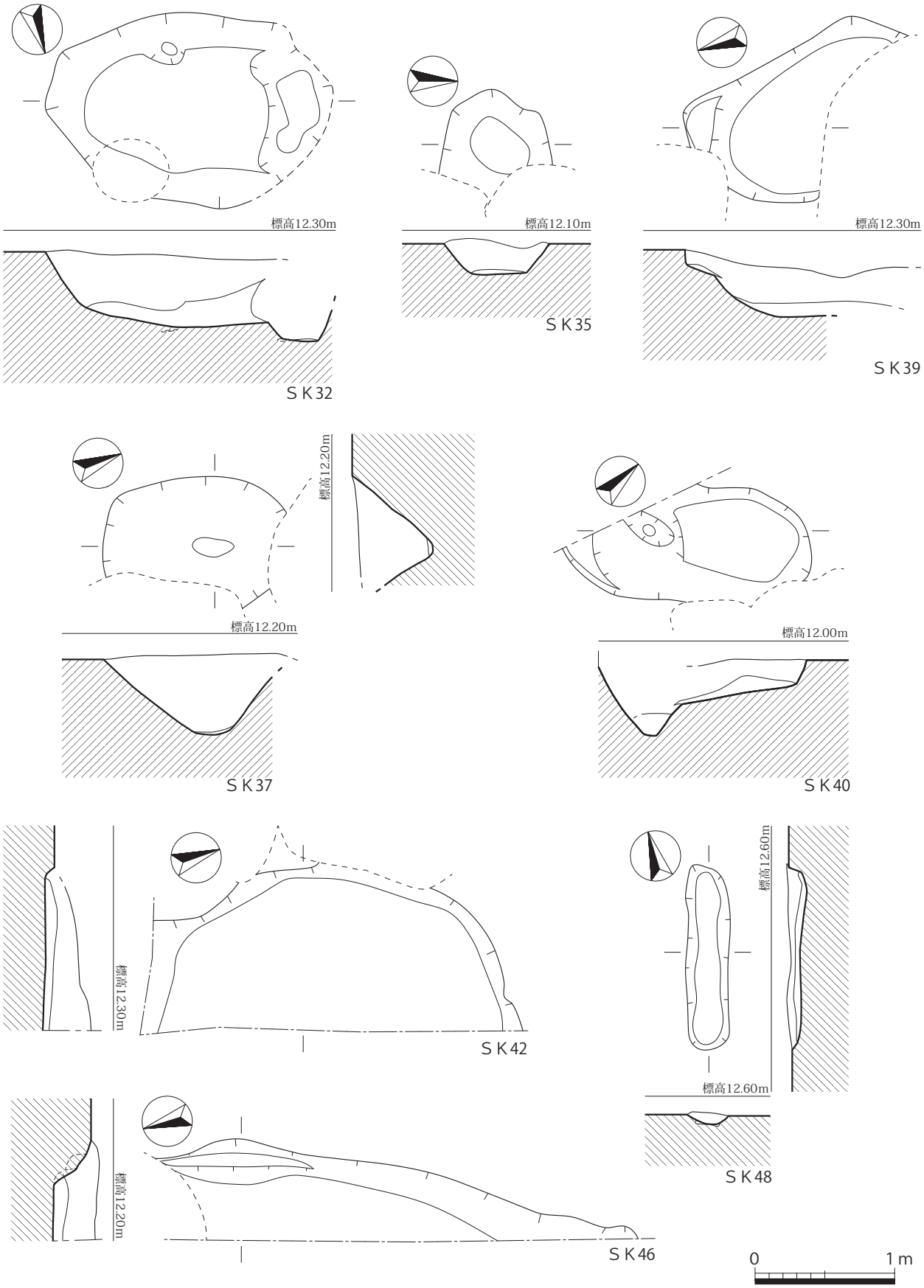
西区で検出した円形の土坑である。ＳＫ 29･30 に先行し、ＳＫ 36･37 に後出する。長軸 0.7 m、短軸 0.7、深さ 0.2 mを測る。出土遺物の時期は明らかではないが、先行するＳＫ 37 が 18 世紀前半、後出するＳＫ 39 が 18 世紀中頃に属するため、18 世紀前半から中頃に属すると推測される。

ＳＫ 37（第 11 図、図版６）

西区で検出した楕円形の土坑であり、擂鉢状の断面をしている。ＳＫ 28・30・35 に先行する。長軸 1.2 m、短軸 0.7 m、深さ 0.5 mを測る。18 世紀前半に属する。

ＳＫ 39（第 11 図、図版６）

西区で検出した楕円形の土坑である。ＳＫ 19･30 に先行し、ＳＫ 42 に後出すると考えていたが、ＳＫ 42 には先行することが分かった。長軸 1 m、短軸 0.9 m、深さ 0.3 mを測る。北側に一段のステップを有する。18 世紀前半に属する。



第 11 図　ＳＫ 32・35・37・39・40・42・46・48 実測図（1/40）

ＳＫ 40（第 11 図）

西区で検出した楕円形の土坑である。ＳＥ 20・ＳＰ 38 に先行し、ＳＫ 46・ＳＸ 21 に後出する。長軸 1.4 m、短軸 0.8 m、深さ 0.5 mを測る。出土遺物の時期は不明だが、先行するＳＫ 46 と後出するＳＥ 20 の時期がともに 18 世紀中頃であることから、ＳＫ 40 も 18 世紀中頃に属する。

ＳＫ 42（第 11 図、図版７）

西区で検出した円形の土坑である。当初ＳＫ 29・30・39 に先行し、ＳＫ 44 に後出すると考えていたが、遺物整理の結果、ＳＫ 39 に先行することが分かった。遺構は調査区の東および南へと広がるため、規模や形状は不明確である。残存部分の長軸 2.5 m、短軸 1.1 m、深さ 0.3 mを測る。18 世紀後半に属する。

ＳＫ 44（図版７）

西区で検出した隅丸方形の土坑である。当初ＳＫ 39・42 に先行すると考えていたが、遺物整理の結果、ＳＫ 39 には後出することが分かった。残存部分の長軸 1.2 m、短軸 1.2 mを測る。調査中、下端の測量を失念しており、正確な深さは不明である。18 世紀中頃に属する。

ＳＫ 46（第 11 図）

西区で検出した土坑である。ＳＫ 46 に先行し、ＳＫ 28・32 に後出する。遺構は調査区の西へと広がるため、規模や形状は不明確である。残存部分の長軸 3.1 m、短軸 0.7 m、深さ 0.3 mを測る。18 世紀中頃に属する。

ＳＫ 48（第 11 図、図版７）

東区で検出した南北方向に長い楕円形の土坑である。ＳＫ 52 に後出する。長軸 1.2 m、短軸 0.3 m、深さ 0.1 mを測る。埋土中に石炭が多量に観察されたため、埋土を水洗洗浄したところ、石炭や木炭、精錬鍛冶滓、羽口、粒状滓、鍛造剥片が出土した。陶磁器類の出土はなく、時期は不明である。先行するＳＫ 52 の時期が 18 世紀後半であるため、18 世紀後半以降に属する。

ＳＫ 49（第 12 図、図版７）

東区で検出した楕円形の土坑である。ＳＫ 56 に後出する。南側を撹乱によって破壊されていたため、全体の規模や形状は不明確である。残存部分は、長軸 0.9 m、短軸 0.5 m、深さ 0.1 mを測る。18 世紀後半に属する。

ＳＫ 52（第 12 図、図版７）

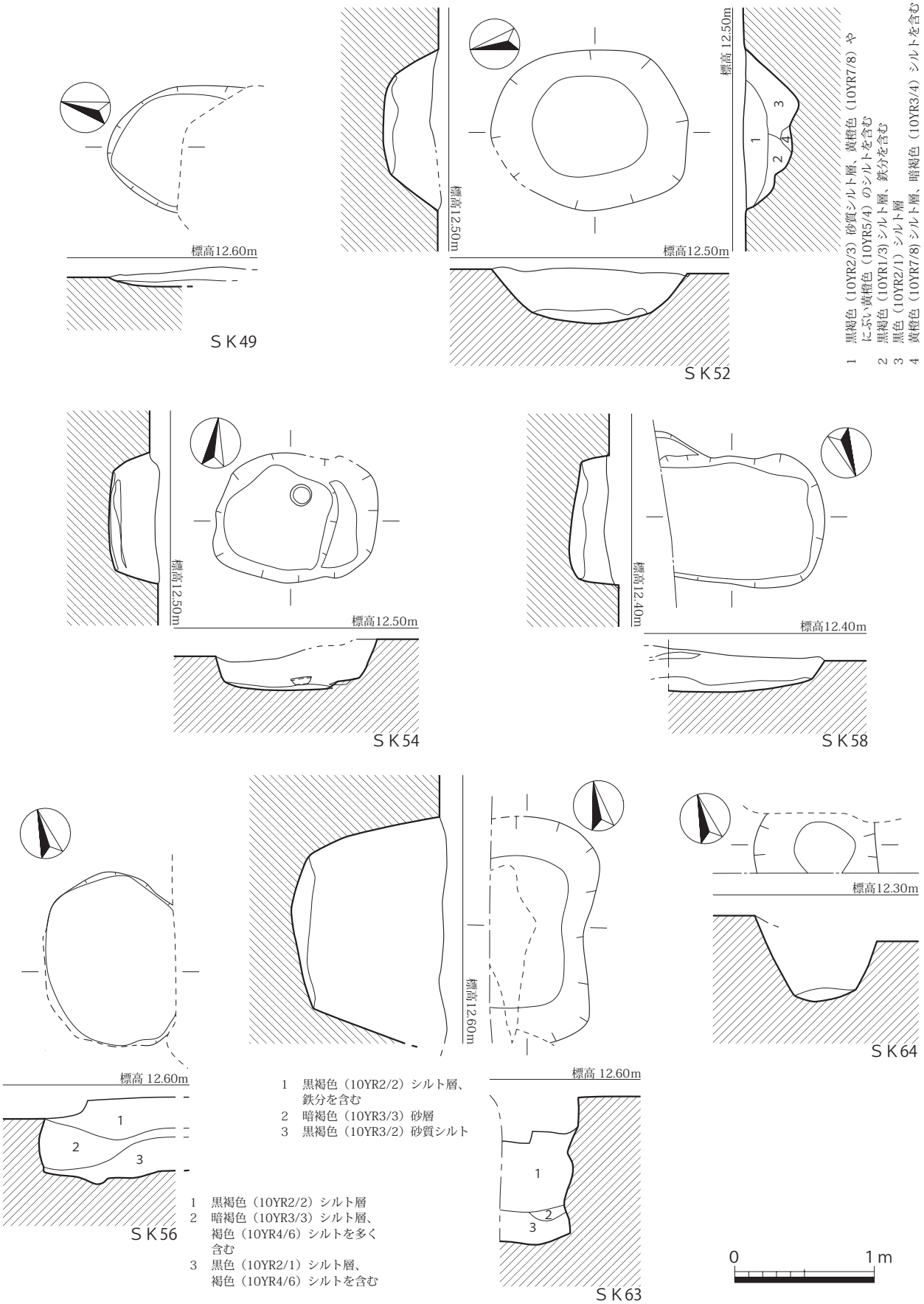
東区で検出した円形の土坑である。ＳＰ 69 に先行し、ＳＫ 48 に後出する。長軸 1.4 m、短軸 1.1 m、深さ 0.4 mを測る。18 世紀後半に属する。

ＳＫ 54（第 12 図、図版７）

東区で検出した楕円形の土坑である。長軸 1.1 m、短軸 0.9 m、深さ 0.3 mを測る。東側に一段のステップを有する。遺構の底面で白磁の皿が出土した。18 世紀前半に属する。

ＳＫ 56（第 12 図、図版７・８）

東区で検出した円形の土坑である。ＳＫ 49 に先行する。遺構の東側は撹乱によって破壊されて



第 12 図　ＳＫ 49・52・54・56・58・63・64 実測図（1/40）

いた。残存部分の長軸 1.1 m、短軸 0.8 m、深さ 0.6 mを測る。17 世紀前半に属する。

ＳＫ 58（第 12 図、図版８）

東区で検出した楕円形の土坑である。ＳＫ 70・74 に後出する。遺構の東側は調査区外へと広がる。長軸 1.1 m、短軸 0.8 m、深さ 0.6 mを測る。19 世紀代に属する。

ＳＫ 63（第 12 図、図版８）

東区で検出した隅丸方形の土坑である。ＳＫ 60・62 に先行する。遺構の西側は調査区外に広がる。長軸 1.6 m、短軸 0.6 m、深さ 1.0 mを測る。17 世紀後半に属する。

ＳＫ 64（第 12 図、図版８）

東区で検出した円形の土坑である。ＳＫ 70・74 に先行し、ＳＰ 81 に後出する。遺構の南側は調査区外に広がる。長軸 0.8 m、0.4 m、0.6 mを測る。17 世紀代に属する。

ＳＫ 70（第 13 図、図版８）

東区で検出した楕円形の遺構である。当初ＳＫ 58・ＳＰ 65 に先行し、ＳＫ 64・74・77 に後出すると考えていたが、遺物整理の結果、ＳＫ 77 には先行することが分かった。長軸 1.6 m、短軸 1.1 m、深さ 0.4 mを測る。東側に 1 段のステップを有する。18 世紀後半に属する。

ＳＫ 72（第 13 図、図版８）

東区で検出した楕円形の遺構である。ＳＫ 77 に先行し、ＳＫ 78・81 に後出する。遺構の西側は調査区外に広がる。長軸 1.4 m、短軸 0.8 m、深さ 0.4 mを測る。18 世紀後半に属する。

ＳＫ 73（第 13 図、図版８）

東区で検出した円形の遺構である。ＳＫ 77 に後出する。長軸 1.0 m、短軸 0.9 m、深さ 0.2 mを測る。19 世紀前半に属する。

ＳＫ 74（第 13 図、図版８）

東区で検出した不整形の遺構である。ＳＫ 58・50 に先行し、ＳＫ 64 に後出する。遺構の南側は調査区外へ広がる。長軸 1.1 m、短軸 1.0 m、深さ 0.4 mを測る。18 世紀後半に属する。

ＳＫ 75（第 13 図、図版９）

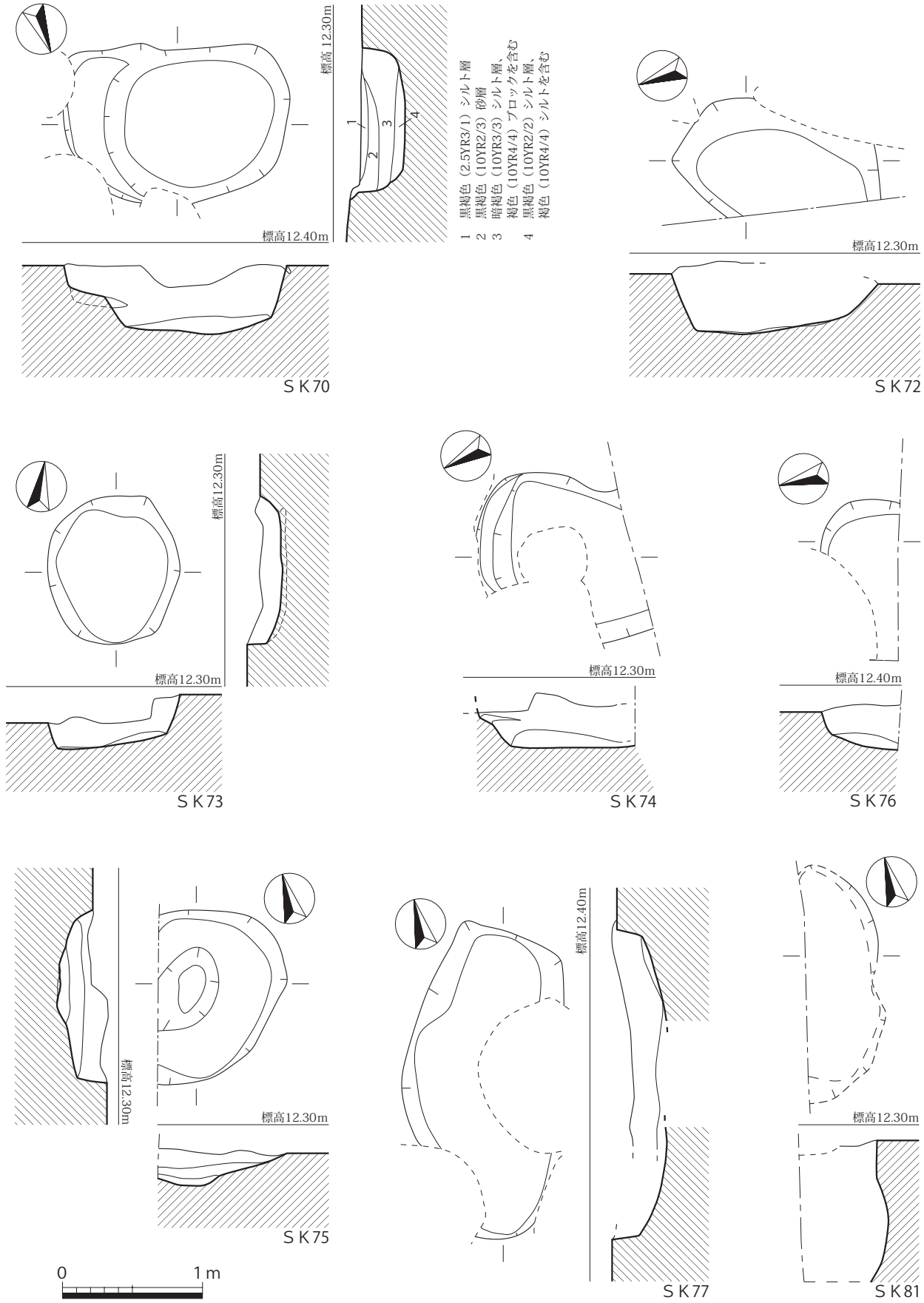
東区で検出した楕円形の遺構である。当初ＳＫ 76・77・78 に後出すると考えていたが、ＳＫ 76･77 には先行することが遺物整理の結果分かった。遺構の西側は調査区外へ広がる。長軸 1.2 m、短軸 0.9 m、深さ 0.2 mを測る。18 世紀後半に属する。

ＳＫ 76（第 13 図）

東区で検出した楕円形の遺構である。当初ＳＫ 75 に先行し、ＳＰ 82 に後出すると考えていたが､遺物整理の結果ＳＫ 75 に後出することが分かった｡遺構の南側および西側は調査区外へ広がる。長軸 1.1 m、短軸 0.5 m、深さ 0.3 mを測る。19 世紀代に属する。

ＳＫ 77（第 13 図）

東区で検出した楕円形の遺構である。当初ＳＫ 70・73・75 に先行し、ＳＫ 72・78 に後出すると考えていたが、遺物整理の結果ＳＫ 70・75 に後出することが分かった。長軸 2.2 m、短軸



第 13 図　ＳＫ 70・72 ～ 77・81 実測図（1/40）

1.0 m、深さ 0.2 mを測る。19 世紀代に属する。

ＳＫ 81（第 13 図、図版９）

東区で検出した楕円形の遺構である。ＳＫ 72・ＳＰ 80 に先行する。遺構の西側は調査区外へと広がるため、全体の形状や規模は不明である。調査区壁際で検出されたことや、ピンポールで深さを確認したところ、さらに深くなりそうであったため、安全上深さ 1.0 mで人力での掘削を止めている。井戸であった可能性もある。長軸 1.7 m、短軸 0.5 m、深さ 1.0 m以上を測る。18 世紀前半に属する。

ピット

ＳＰ２（第 14 図、図版９）

西区で検出したピットである。ＳＸ 21 に後出する。長軸 0.5 m、短軸 0.4 m、深さ 0.3 mを測る。ピット内部には、桟瓦の上に伏せられた雲助徳利が確認された。この遺物の出土状況から、胞衣を埋納した遺構ではないかと推測される。18 世紀中頃以降に属する。

ＳＰ 50（第 14 図、図版９）

東区で検出したピットである。長軸 0.4 m、短軸 0.4 m、深さ 0.2 mを測る。ピットの底部に石材が２点据えられ、建物の基礎ではないかと推測される。ＳＰ 50 の南側には、同じく石材が据えられたＳＰ 55 があり、これらが建物を構成するピットである可能性がある。建物を構成するピットとすると、ＳＰ 50･55 の西側および南北方向の軸線上に同様のピットは確認されなかったため、建物は東側に展開するものと考えられる。しかし、東側は撹乱によって破壊されているため、規模については不明である。ＳＰ 50 とＳＰ 55 間は 1.9 mを測る。時期は不明である。

ＳＰ 55（第 14 図、図版９）

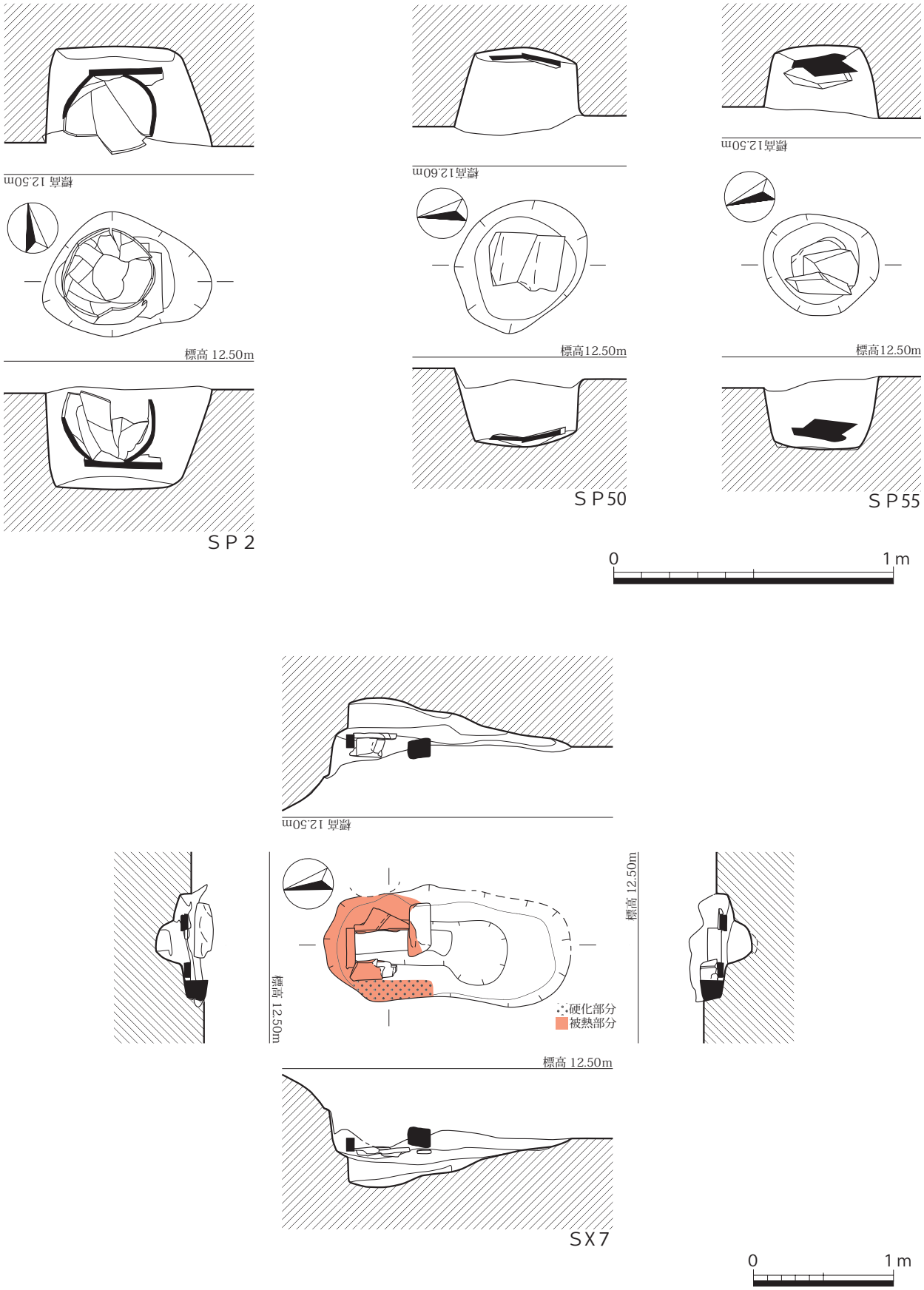
東区で検出したピットである、長軸 0.4 m、短軸 0.3 m、深さ 0.2 mを測る。ピットの底部に３つの石材が据えられており、建物の基礎ではないかと推測される。ＳＰ 50 との関係は先述のとおりである。時期は不明である。

鍛冶遺構

ＳＸ７（第 14 図、図版９・10）

西区で検出した鍛冶炉である。ＳＫ 33 に後出する。北に深く、南に緩やかな傾斜をもって徐々に立ち上がる隅丸長方形の土坑内に、石、煉瓦状の部材で長方形の炉体が構築されている。遺構全体の大きさは、長軸 1.7 m、短軸 0.8 m、最深部で 0.5 mを測る。炉体のある北側は二段掘りになっており、テラスの部分に炉材が横置きに組まれている。炉材とともに検出されている粘土焼結塊は炉材の固定材として使用された可能性がある。煉瓦状の炉材は、22.8㎝以上× 9.2㎝× 6.1㎝の直方体に整形し、焼成されたものである。炉体は、１段目に石や煉瓦状の炉材を配置し、その上に粘土の焼結塊が検出されており、さらにその上に炉材が積まれた可能性も想定される。また、石材より下にある遺構の壁や底は被熱していなかった。

炉体を中心に約 80㎝四方が強く被熱していた。そのうち西の長手側の硬化が顕著であり、羽口



第 14 図　ＳＰ２・50・55、ＳＸ７実測図（ＳＸ７は 1/40、それ以外は 1/20）

の設置場所の可能性がある。

炉内より近世陶磁器片、鍛冶滓が出土した。近世陶磁器は細片であるが、18 世紀中頃に属する。鍛冶滓は小型品が数点あり、椀形滓は含まれていない。埋土のうち、サンプリングした 1,500g を水洗し、乾燥後観察したが、鍛造剥片などの微細遺物は確認されなかった。

ＳＸ 21（第 15 図、図版 10）

西区で検出した鍛冶炉である。ＳＥ 20・ＳＫ 40 に先行し、ＳＫ 22 に後出する。長軸 2.9 m、短軸 1.4 m、深さ 1.3 mを測る。

６層まで掘り下げたところで、遺構の北側で円形に配列された石材および 100㎝× 48㎝の隅丸方形の非常に強い被熱痕跡が認められた。また、南側には木炭の広がりが認められ、南側へ掻き出されたようにみられる。この隅丸方形の比熱部分や遺構の掘方の形状は、中国山地でみられる大鍛冶炉に類似する。大鍛冶炉は、石組の隅丸方形や長方形の炉を構築し、そこに木炭を充填させ、精錬を行う。そのため、大鍛冶炉の土層断面には炉の立ち上がりが観察されるが、SX21 の土層の堆積状況からはそういった立ち上がりは観察されなかった。即ち、被熱痕跡より上面は破壊され、１～６層までは廃絶時に埋められたと推測される。１～６層からは 18 世紀中頃の近世陶磁器が出土しているため、この時期に廃絶されたのであろう。なお、埋土のうちサンプリングした 6,615 g を水洗し、乾燥後観察したが、１・２・７・21 層から鍛造剥片などの微小遺物は確認されなかった。

第 2 表　久留米城下町遺跡第 30 次調査　水洗した埋土一覧

遺構番号	層位	重さ (g)	備考
SK14		990	石炭 (85.2g) が出土
SK48		11,630	石炭 (141.2g)・木炭・鉄滓・鍛造剥片 (53.3g)・粒状滓 (27.9g)・羽口が出土
SX7		1,500	
SX21	1 層	4,300	
SX21	2 層	1,075	
SX21	7 層	660	
SX21	21 層	580	

2．出土遺物

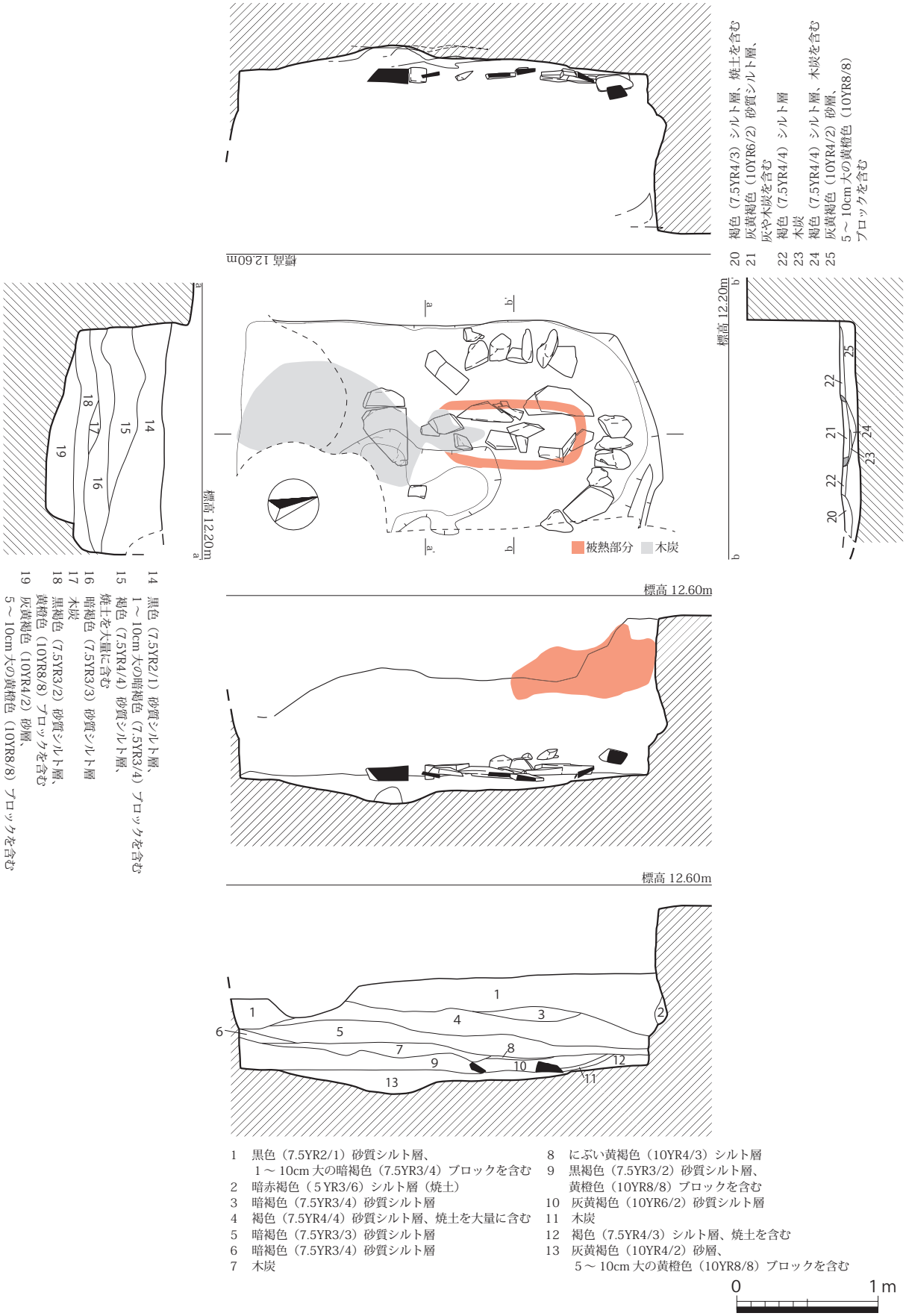
合計 30 箱の遺物が出土した。このうち、近世陶磁器類が 20 箱、鉄滓・鉄製品が 10 箱である。

紙面の都合上､実測図は一部の鉄滓や鉄製品に限られる。その他の出土遺物の法量等に関しては、観察表（第 5 ～ 12 表）を参照されたい。以下、特筆すべき遺物について述べる。

ＳＫ 30 から 50 ～ 53、55・56、59・60、61 ～ 77、78・79、80・81 といった器形や文様を同じくする揃いの碗や碗蓋、皿などが出土しており、一括で廃棄されたとみられる。

89 はＳＫ 30 で出土したガラス製品である。おそらく容器とみられるが、形状は不明である。蛍光Ｘ線による元素分析の結果、ソーダ石灰ガラスとみられる。元素分析の結果は第 16 図を参照されたい。

９・33 ～ 35・44・46・103・113・114・119・140・164・188・200・218・241 は砥石である。掲載していない細片を含め、24 点が出土した。このうち９・33・35・113・114・218 には明瞭な

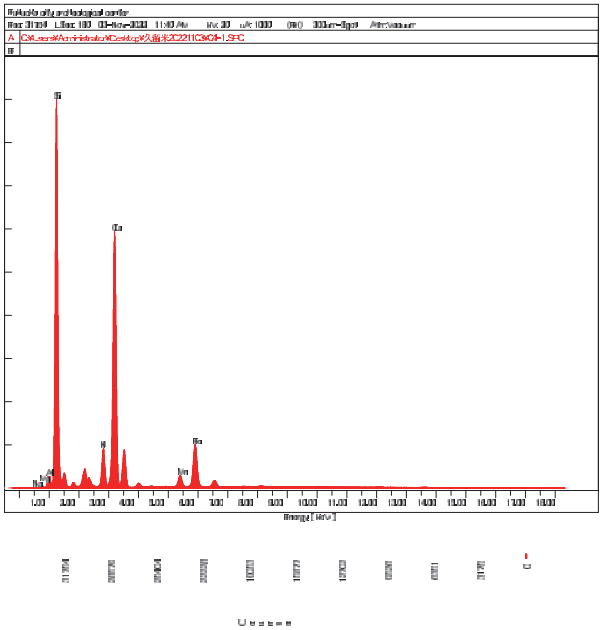


第 15 図　ＳＸ 21 実測図（1/40）

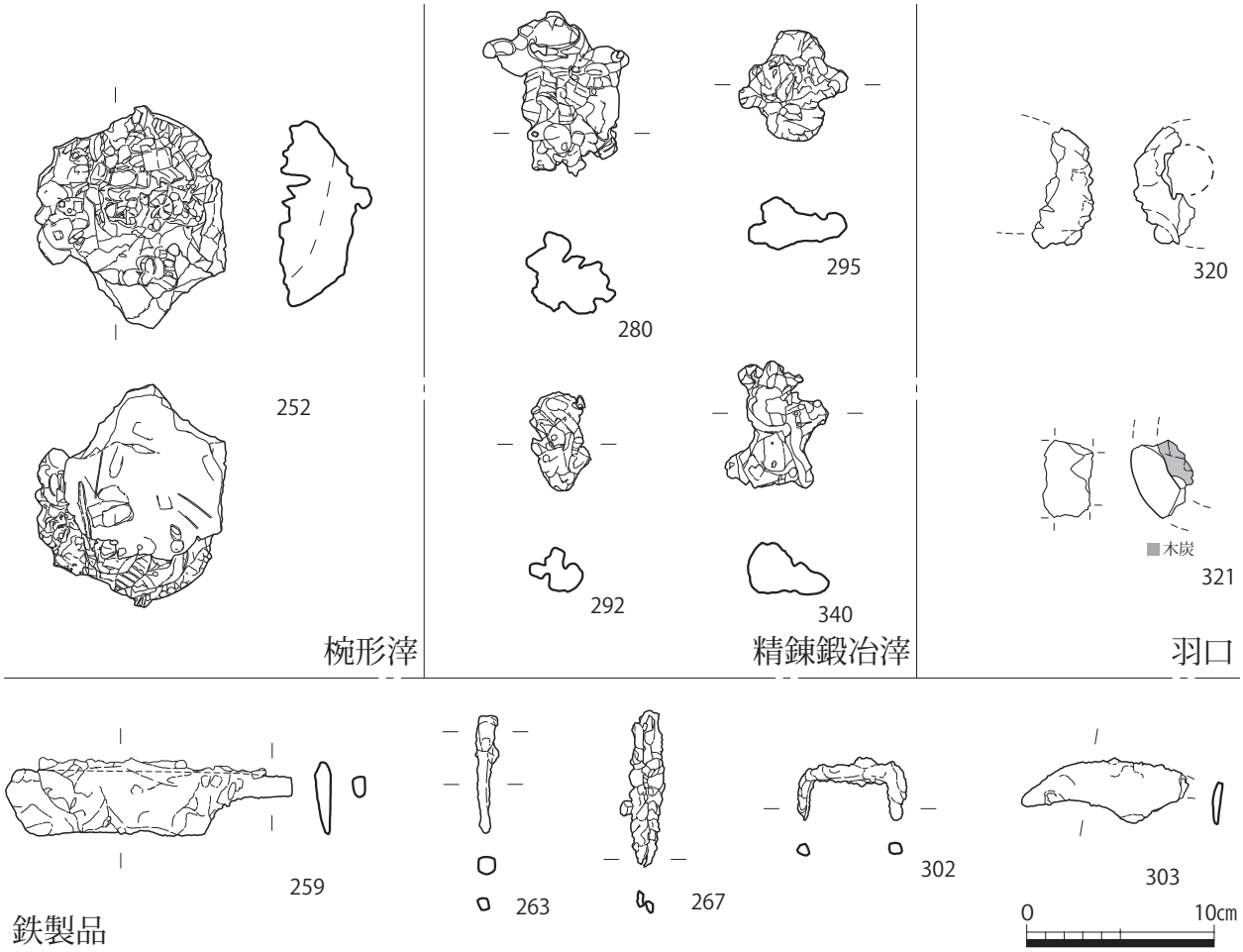
使用痕が観察できた。なお、９には格子状の使用痕がみられる。

28・92 ～ 97・142 ～ 145・92 ～ 95・97・160・175・193 ～ 195・219・223 は銭貨で、寛永通宝（92 ～ 95・97・160・175・193・195）や洪武通宝（143 ～ 145）、熙寧元宝（142）がみられる。

252 はＳＥ 53 出土の椀形滓で、２個体分が上下に重なっている。底面には砂礫が付着している。木炭の噛みこみはみられなかった。280 はＳＫ 30、292・295 はＳＫ 32、340 はＳＸ７から出土した精錬鍛冶滓である。いずれも不整形であり、重量は軽い。259 はＳＥ 53 出土の包丁、263 はＳＫ４出土の釘、267 はＳＫ 15 出土の毛抜である。302･303 はＳＫ 32 から出土した。302 は鎹、303 は鎌である。320・321 はＳＫ 48 から出土した羽口である。いずれも全体的に摩滅しており、内面は剥落している。



第 16 図　蛍光Ｘ線分析結果



第 17 図　鉄製品・鉄滓実測図（1/4）

3．総括

（1）鍛冶関連遺物について

今回の調査では、鍛冶関連遺物が出土した。以下、①鉄滓②粒状滓③鍛造剥片④鉄製品に分けて記述する。

①鉄滓

出土した鉄滓は、鍛錬鍛冶で生成された椀形滓と精錬鍛冶滓に分けられる。なお、担当者がどちらとも判別できなかったものはその他として整理している。

出土した椀形滓は、①底面に砂礫の付着がみられる②木炭の噛みこみがない③鉄分を多く含み、体積に対して重量があるという特徴がある。このことから、椀形滓は鍛錬鍛冶に伴うものと判断される。総重量は 12,006.8g である。ＳＥ 53 からの出土量が最も多く、2,124.6g と全体の 17.7％を占めている。椀形滓は 17 世紀前半から出土し始め、18 世紀中頃から後半にかけて出土量のピークを迎えている。19 世紀になると出土量は激減する。

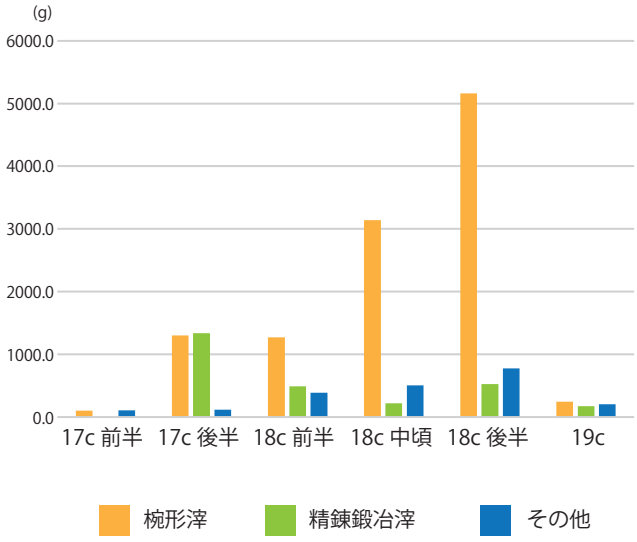
出土した精錬鍛冶滓は①不整形②鉄分がほぼ含まれておらず、体積に対して重量が軽いという特徴がある。総重量は 4869.2g である。時期不明のＳＫ 48 からの出土量が最も多く、1853.1g と全体の 38.1％を占めている。時期が分かる遺構としては、ＳＫ 32 からの出土量が最も多い。出土量は 1309.3g であり、全体の 26.9％を占めている。精錬鍛冶滓は 17 世紀後半の出土量が最も多く、ＳＫ 32 から出土した精錬鍛冶滓の量を繁栄している。18 世紀を通じて出土量の大きな変動はみられないが、19 世紀になると出土量は減少する。

②鍛造剥片（図版 21）

鍛造剥片とは、鉄塊を鍛打した際に飛散する剥片で、鍛錬鍛冶に伴う微小遺物である。出土した鍛造剥片は大型で厚いものと小型で薄いものに大別できる。それぞれ高温鍛錬鍛冶と低温鍛錬鍛冶

第３表　出土鉄滓の重量

	椀形滓		精錬鍛冶滓		その他	
	個数	重量 (g)	個数	重量 (g)	個数	重量 (g)
17 世紀前半	1	102.3	0	0.0	1	103.8
17 世紀後半	11	1,301.7	41	1,337.5	2	115.0
18 世紀前半	16	1,269.9	13	486.1	11	384.6
18 世紀中頃	37	3,138.6	4	215.9	15	501.3
18 世紀後半	66	5,160.5	10	523.0	35	776.7
19 世紀	3	244.0	3	173.7	3	202.4
時期不明	10	789.8	354	2,133.0	7	302.5
合計	144	12,006.8	425	4,869.2	74	2,386.3



第 18 図　時期別の鉄滓重量

の２種の工程に対応する。ＳＫ 48 から 53.3 ｇ出土した。

③粒状滓（図版 21）

粒状滓とは、赤熱化した鉄素材の表面から滴下したり、鍛打で飛散して球状化した微小な酸化鉄を含む不純物である。出土した粒状滓は大きく歪な形のものと小さい球体に大別できる。前者が精錬鍛冶、後者が鍛錬鍛冶に対応する可能性が高い。ＳＫ 48 から 27.9 ｇ出土した。

④鉄製品

釘、刀子、包丁、鋏、鎌などが出土している。製品として作られただけでなく、補修や再利用のための製品を含むと考えられる。

（２）鍛冶の工程と検出した鍛冶遺構について

まず、鍛冶関連遺物から鍛冶の工程を考えてみたい。精錬鍛冶滓と大きく歪な形の粒状滓が出土していることから精錬鍛冶が行われたと考えられる。椀形滓、鍛造剥片、大小の粒状滓からは、高温鍛錬鍛冶と低温鍛錬鍛冶の２種類の工程があったと推測できる。

次に、想定される工程と検出した遺構（ＳＸ７・21）との関係について考えてみたい。

中国山地の大鍛冶炉と類似する[註1]炉の構造から、ＳＸ 21 は精錬鍛冶炉と推定した。精錬鍛冶滓のうち、遺構の位置関係から、ＳＫ 32 出土遺物は、このＳＸ 21 に伴うものと考えられる。

ＳＸ７については、鍛錬鍛冶炉と推定する。ただし、ＳＸ７は、操業時、炉の内部に木炭が充填していたと推測されるため、鍛冶を行った場合、底部に砂礫が付着しない椀形滓が生成されると推測される。しかし、今回出土した椀形滓には底部に砂礫が付着していたため、ＳＸ７で生じた鉄滓ではない。底部に砂礫が付着する椀形滓は、地山を掘り窪めた鍛錬鍛冶炉の存在を示唆するものであり、今回の調査では検出されなかったこととなる。

以上のことから、第 30 次調査地では、ＳＸ 21 が精錬鍛冶、ＳＸ７が鍛錬鍛冶に対応するが、底部に砂礫が付着する椀形滓を生成するような鍛冶炉も付近に存在し、高温・低温の鍛錬鍛冶が行われたと考えられる。

（３）石炭について

ＳＫ 14・48 の埋土中から石炭が出土した。ＳＫ 48 の時期は不明であるが、ＳＫ 14 の時期は 18 世紀前半に位置付けられる。また、ＳＫ 48 からは、木炭・鉄滓・鍛造剥片・粒状滓・羽口が石炭と共に出土した。以上のことから、近世に石炭が鍛冶に使われた可能性がある。

また、近世の石炭使用を裏付ける文献資料が以下の通り挙げられる。

①『米府年表』（享保十二〔1727〕年）[註2]

十月三日、士中石炭焚間敷旨、久米新蔵申達候事之由

②『石原家記』（宝暦六〔1756〕年三月ヵ）[註3]

上津荒木･藤田に石炭始候処、此所地下弐丈余下に大木朽木、上津荒木･藤田より田方迄の間、四里余大分あり、香気あり、藤田百助殿・東原段之進殿、為見分御出、沈香なとの様にあり、別所清左衛門より貰ひ参

①については、藩士の石炭使用を禁じることを久米新蔵が伝えたとするもので、18 世紀前半には石炭が使用されていたことが窺える。②については、上津荒木・藤田[註4]で石炭を採掘したという内容である。

なお出土した石炭は、通電しないことと比重が軽いことから、コークスとして加工されたものではないと推測される。

（4）遺構の変遷について（第 19 図）

今回の調査では、17 世紀から 19 世紀にかけての遺構を確認した。先述した鍛冶遺構の検出や鍛冶関連遺物の出土から、調査地は近世には鍛冶屋があったと考えられる。以下、遺構の変遷を時期別に述べる。

17 世紀前半は、ＳＥ 11、ＳＫ 56 が該当する。調査地が所在する通町六丁目は寛永元年（1624）に建設が始まり、寛永 18 年（1641）には成立した町であるため、町の成立期の遺構でもある。主に調査地の北側に分布する。遺構から少量ではあるが鍛錬鍛冶に伴う椀形滓が出土していることから、町の成立当初から操業を始めた可能性がある。また、ＳＫ 56 から 16 本の釘が出土している。

17 世紀後半は、ＳＫ 32・63・64 が該当する。ＳＫ 32 は 1,071.9g の椀形滓と 1,309.3g の精錬鍛冶滓が出土しており、精錬鍛冶・鍛錬鍛冶ともに本格的な操業が開始したとみられる。

18 世紀前半は、ＳＥ 34、ＳＫ 14 ～ 19・28・37・39・54・81 が該当する。ＳＫ 14 からは石炭が出土している。精錬鍛冶滓の出土量は減少するものの、椀形滓の出土量はほぼ横這いである。

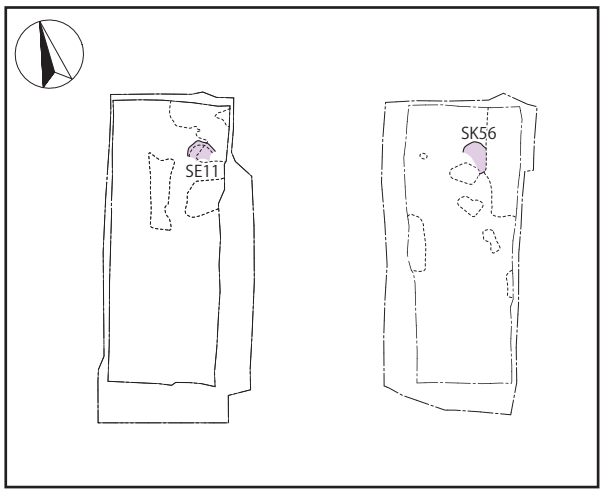
18 世紀中頃は、ＳＥ 20・ＳＫ 13・29・35・40・44・46、ＳＸ７・21 が該当する。東区に遺構はみられない。ＳＥ 20、ＳＸ７・21 は廃絶の年代を示すものである。ＳＫ 32 から多量の精錬鍛冶滓が出土していることから、ＳＸ 21 は 17 世紀後半からこの時期まで稼働していた可能性がある。また、ＳＥ 20 がＳＸ 21 に後出する。井戸の使用から廃絶までが 18 世紀中頃の一時期だけにおさまるとは考えにくく、ＳＥ 20 とＳＸ 21 が併存していた可能性もある。

18 世紀後半は、ＳＥ 53・ＳＫ１・30・42・49・52・70・72・74・75 が該当する。遺構数は西区では減少するが、東区では増加する。椀形滓の出土量はこの時期まで継続して増加しており、最盛期を迎えたとみられる。

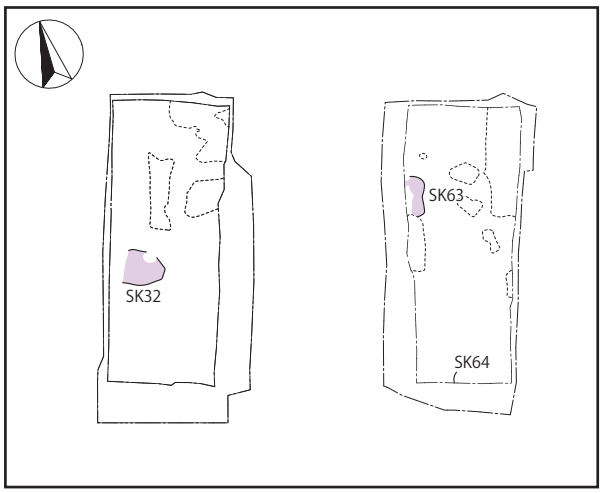
19 世紀は、ＳＫ 41・58・73・76・77、ＳＰ 51 が該当する。遺構数は減少し、主に東区の南側に分布する。椀形滓・精錬鍛冶滓ともに出土量が減少する。18 世紀後半に比べ、椀形滓が 96％減少、精錬鍛冶滓は 67％減少している。そのため、18 世紀後半から 19 世紀の時期に鍛冶屋は廃業したと考えられるだろう。

註１　例えば、島根県飯南町の獅子谷遺跡４号炉が挙げられる。（角田徳幸 2014『たたら吹製鉄の成立と展開』清文堂）
註２　久留米市役所　1973　『久留米市誌』下編　株式会社名著出版　p.135
註３　石原為平　1973　『石原家記』下巻　株式会社名著出版　p.443
註４　上津荒木・藤田は現在の久留米市南部にあたり、筑後市・広川町に隣接する。

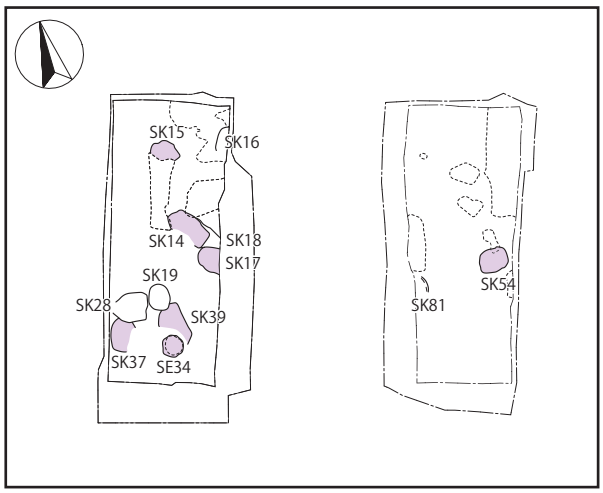
17 世紀前半



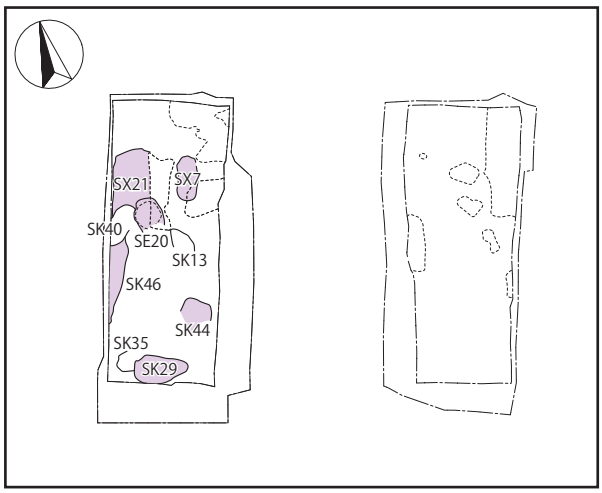
17 世紀後半



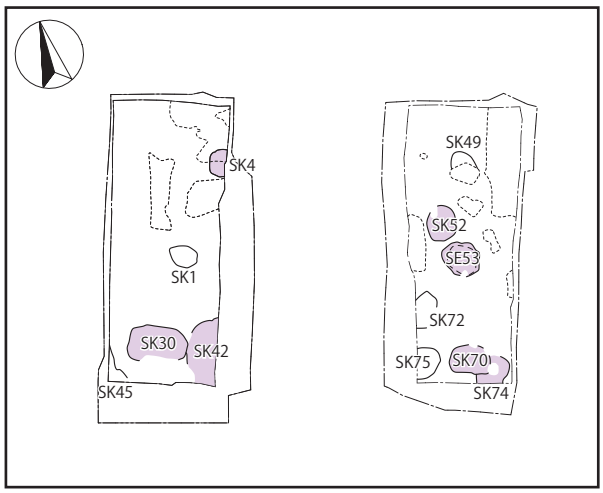
18 世紀前半



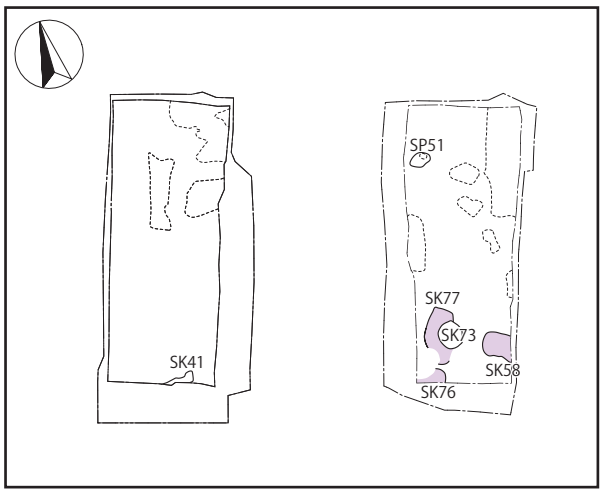
18 世紀中頃



18 世紀後半



19 世紀



鉄滓出土遺構　0　10m

第 19 図　久留米城下町遺跡第 30 次調査　主要遺構変遷図（1/300）

第４表　鍛冶関連遺物出土遺構一覧表

遺構	時期	椀形滓		精錬鍛冶滓		その他		鉄塊系遺物	釘	刀子	包丁	鎌	鉄片	刀	鎹	毛抜	不明
		個数	重量 (g)	個数	重量 (g)	個数	重量 (g)										
SE11	17 世紀前半	1	102.3						1								
SE20	18 世紀中頃	11	868.7			8	276.9		9	2			1				1
SE34	18 世紀前半	2	226.3			1	25.1		2		1	1					
SE53	18 世紀後半	27	2,124.6	2	93.2	9	167.6		55	8	3						2
SK3	不明	1	89.3						1								1
SK4	18 世紀後半	2	186.0			2	96.3		11	1							2
SK13	不明	1	69.5														
SK14	18 世紀前半					2	139.7		1								
SK15	18 世紀前半			3	123.1	1	18.5		14	1						1	
SK17	18 世紀前半	6	342.8	3	48.3	4	107.7		4								
SK28	18 世紀前半	1	115.3														
SK29	18 世紀中頃								1	1							
SK30	18 世紀後半	15	1,043.0	5	296.9	9	76.6	1	27	2							11
SK32	17 世紀後半	7	1,071.9	40	1,309.3	1	60.2	2	18	7	2	2	1		1		7
SK37	18 世紀前半								2								
SK39	18 世紀前半	4	359.2	7	314.7				12	2							2
SK40	不明	2	130.4	3	147.1	4	217.4		1	1							
SK42	18 世紀後半	6	441.5	3	132.9	6	196.5		8								
SK44	18 世紀中頃	8	870.5	1	37.9	3	57.4		2	1							
SK46	18 世紀中頃	12	975.2	2	107.2				5								
SK48	不明			347	1,853.1												
SK52	18 世紀後半	4	318.8						2								
SK54	18 世紀前半	3	226.3			1	75.0		3					1			
SK56	17 世紀前半					1	103.8		16	1							
SK58	19 世紀	2	80.0														
SK63	17 世紀後半	4	229.8	1	28.2	1	54.8		10	3							
SK70	18 世紀後半	3	265.7			7	164.1		14	1							1
SK72	18 世紀後半	1	126.5						2								
SK73	19 世紀前半			1	106.5												
SK74	18 世紀後半	8	654.4			2	75.6		8								
SK76	19 世紀			2	67.2	2	178.8										
SK77	19 世紀					1	23.6			1							1
SK78	不明	1	32.2			1	22.0		1								
SK81	18 世紀前半					2	18.6		4								
SP2	19 世紀	1	164.0						2								4
SP24	不明	1	40.6														
SP25	不明								1								
SP26	不明									1							
SP27	不明	1	59.1	1	27.8				2								1
SP47	不明	1	93.1														
SP60	不明	2	275.6			1	31.8		1								
SP61	不明					1	31.3		1								
SP65	不明			1	50.4												
SP68	不明							1									
SP80	不明			2	54.6												
SX7	18 世紀中頃			1	70.8	2	126.1										
SX21	18 世紀中頃	6	424.2			2	40.9		4	1							2
合計		144	12,006.8	425	4,869.2	74	2,386.3	4	245	34	6	3	2	1	1	1	35

第 5 表　久留米城下町遺跡第 30 次調査　出土遺物観察表 1

遺物番号	図版番号	遺構	材質	器種	法量			染付釉薬色調	装飾・調整		見込み	底面・高台内印銘	備考	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）		外面	内面				
1	図版 11	SE11	磁器	皿	-	(5.8)	(0.8)	染付	草			ケズリ	明染	202109000014
2	図版 11	SE11	陶器	皿	(15.5)	-	(2.2)	灰					溝縁皿、17c 前半	202109000012
3	図版 11	SE11	陶器	皿	(26.4)	-	(4.2)	灰					17c 前半	202109000013
4	図版 11	SE20	磁器	碗	6.3	2.6	4.5	染付	圏線・蘭			圏線	17c 中頃	202109000023
5	図版 11	SE20	磁器	碗	-	(4.2)	(3.1)	染付	花唐草				18c 前半	202109000024
6	図版 11	SE20	磁器	碗	-	(4.2)	(3.0)	染付	圏線・草花			二重圏線・渦福	18c 前半	202109000026
7	図版 11	SE20	磁器	碗	(8.6)	-	(2.2)	染付	菊				こんにゃく印判、18c 中頃	202109000028
8	図版 11	SE20	陶器	皿	(14.5)	-	(2.8)	灰					溝縁皿、17c 前半	202109000025
9	図版 11	SE20	石器	砥石	(6.6)	5.7	1.9	浅黄橙色					格子状の使用痕？あり 110.7g	202109001454
10	図版 11	SE34	磁器	皿	12.2	(7.9)	2.6	染付	圏線・唐草	草花	二重圏線・不明	圏線・二重圏線	18c 前半	202109000112
11	図版 11	SE53	磁器	碗	(8.6)	(4.0)	4.0	染付	二重網目	網目	菊		18c 前半	202109000154
12	図版 11	SE53	磁器	碗	(9.0)	(3.9)	4.1	染付	若松				18c 中頃	202109000155
13	図版 11	SE53	磁器	碗	(8.8)	-	(3.9)	染付	青磁	粟？松？	二重圏線		口紅、18c 後半	202109000156
14	図版 11	SE53	磁器	碗	(9.8)	-	(4.4)	染付	桐				こんにゃく印判、18c 中頃	202109000161
15	図版 11	SE53	磁器	碗	(10.0)	-	(4.5)	染付	草花				18c 前半	202109000171
16	図版 11	SE53	磁器	小碗	7.2	3.4	3.3	白磁					18c 前半	202109000157
17	図版 11	SE53	磁器	皿	(14.4)	(8.0)	2.6	染付		二重圏線・半菊唐草	蛇ノ目釉剥ぎ・五弁花	砂粒付着	こんにゃく印判、くらわんか手、18c 後半	202109000158
18	図版 11	SE53	磁器	皿	(14.0)	(8.0)	3.3	染付		二重圏線・半菊唐草	蛇ノ目釉剥ぎ・五弁花	砂粒付着	こんにゃく印判、くらわんか手、18c 後半	202109000164
19	図版 11	SE53	磁器	皿	(14.0)	(8.8)	3.2	染付		二重圏線・半菊唐草	蛇ノ目釉剥ぎ・五弁花		こんにゃく印判、くらわんか手、18c 後半	202109000172
20	図版 11	SE53	磁器	猪口	-	-	(3.6)	染付	圏線・唐草	四方襷			輪花、18c 前半	202109000162
21	図版 11	SE53	磁器	仏飯	(7.4)	4.1	5.1	染付				露胎		202109000165
22	図版 11	SE53	陶器	碗	(9.0)	3.9	4.6	灰				露胎	18c 中頃	202109000174
23	図版 11	SE53	陶器	皿	(17.0)	5.9	5.2	灰			蛇ノ目釉剥ぎ	露胎	18c、内ノ山系	202109000168
24	図版 11	SE53	陶器	皿	(13.2)	4.4	3.4	灰			蛇ノ目釉剥ぎ	露胎	18c、内ノ山系	202109000170
25	図版 11	SE53	陶器	擂鉢	-	13.4	(8.0)	褐		砂目		砂目	全面施釉	202109000176
26	図版 11	SE53	陶器	燈明皿	9.0	4.6	2.5	褐	一部施釉			糸切り		202109000159
27	図版 11	SE53	陶器	燈明受皿	8.4	4.5	3.2	褐	露胎・ナデ	ヘラケズリ・ナデ		糸切り		202109000175
28	図版 11	SE53	銅製品	銭貨	直径 2.2		0.4						2.8g	202109000450
29	図版 11	SK1	磁器	碗	9.0	4.6	6.3	染付	圏線・宝・山水・東屋	瓔珞文	二重圏線・五弁花	圏線	円筒碗、18c 後半	202109000001
30	図版 11	SK1	磁器	碗	-	(4.0)	(4.0)	染付	山水・菱・井桁？		二重圏線・五弁花	二重圏線・渦福	円筒碗、18c 後半	202109000002
31	図版 11	SK1	磁器	皿	12.4	7.4	2.7	色絵		草花	蛇ノ目釉剥ぎ	蛇ノ目凹型高台	18c 中頃	202109000003
32	図版 11	SK4	磁器	段重	-	(10.8)	(2.3)	染付	圏線・不明			砂粒付着	19c	202109000008
33	図版 11	SK4	石製品	砥石	5.6	(3.8)	0.7	灰色					24.3g、使用痕あり	202109000009
34	図版 11	SK4	石製品	砥石	6.3	4.4	1.5	灰オリーブ色					65.4g	202109000010
35	図版 12	SK4	石製品	砥石	9.4	3.8	2.2	明黄褐色					74.4g、使用痕あり	202109000011
36	図版 12	SK14	磁器	皿	14.4	8.2	3.8	染付	唐草	草花	二重圏線・五弁花	圏線・渦福・砂粒付着	こんにゃく印判、18c 前半	202109000015
37	図版 12	SK15	磁器	皿	13.8	8.0	3.3	染付	圏線	圏線・梅？	二重圏線・花	圏線	くらわんか手、18c 前半	202109000016
38	図版 12	SK16	磁器	碗	7.6	3.6	4.9	染付	圏線・山水		二重圏線	二重圏線	18c 前半	202109000020
39	図版 12	SK16	銅製品	雁首	1.8	1.6	0.1						3.3g	202109000417
40	図版 12	SK17	磁器	瓶	-	(7.7)	(9.6)	染付	圏線・不明	露胎		二重圏線・砂粒付着	くらわんか手、17c 末～18c 初	202109000018
41	図版 12	SK18	磁器	皿	(10.2)	(6.6)	2.0	染付	圏線・唐草	草花	二重圏線・五弁花	二重圏線	輪花、18c 前半	202109000019
42	図版 12	SK19	磁器	皿	(11.3)	(7.6)	2.0	染付	圏線・唐草	草花	二重圏線	二重圏線	輪花、18c 前半	202109000021
43	図版 12	SK28	磁器	瓶	-	(7.2)	(15.7)	染付	圏線・丸・網目？	釉垂れ		二重圏線	17c 末～ 18c 初	202109000141

第６表　久留米城下町遺跡第 30 次調査　出土遺物観察表２

遺物番号	図版番号	遺構	材質	器種	法量			染付釉薬色調	装飾・調整		見込み	底面・高台内印銘	備考	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）		外面	内面				
44	図版 12	SK28	石製品	砥石	(10.3)	(6.6)	4.8	黄褐色					416g	202109000047
45	図版 12	SK29	磁器	碗	(8.0)	-	(3.1)	染付	桐				こんにゃく印判、18c 中頃	202019000048
46	図版 12	SK29	石製品	砥石	(3.6)	(3.1)	0.8	にぶい褐色					9.1g	202109000051
47	図版 12	SK30	磁器	碗	(8.2)	3.1	4.0	染付	二重圏線・樹木・人物・筍	二重圏線	圏線・文字		17c 末～ 18c 前半	202109000053
48	図版 12	SK30	磁器	碗	(7.8)	(3.4)	4.2	染付	菊？				こんにゃく印判、被熱、18c	202109000081
49	図版 12	SK30	磁器	碗	(9.6)	-	(5.8)	染付	圏線・草花	四方襷	二重圏線		円筒碗、19c	202109000085
50	図版 12	SK30	磁器	碗	11.8	4.7	6.2	染付	圏線・草花	四方襷	二重圏線・五弁花	二重圏線	18c 前半	202109000052
51	図版 12	SK30	磁器	碗	11.7	4.8	6.0	染付	圏線・草花	四方襷	二重圏線・五弁花	二重圏線	18c 前半	202109000080
52	図版 12	SK30	磁器	碗蓋	9.8	-	2.8	染付	圏線・草花	四方襷	二重圏線・五弁花	二重圏線	18c 前半	202109000074
53	図版 12	SK30	磁器	碗蓋	10.0	-	3.0	染付	圏線・草花	四方襷	二重圏線・五弁花	二重圏線	18c 前半	202109000075
54	図版 12	SK30	磁器	碗蓋	9.8	4.0	3.1	染付	竹・蔓草・花	四方襷	二重圏線・五弁花	角渦福		202109000082
55	図版 12	SK30	磁器	皿	(6.0)	(12.0)	3.8	染付	圏線・草	草花		圏線・二重圏線	輪花、18c 前半	202109000056
56	図版 12	SK30	磁器	皿	11.4	(5.9)	3.8	染付	圏線・草	草花		圏線・二重圏線	輪花、18c 前半	202109000087
57	図版 12	SK30	磁器	瓶	-	4.7	(12.8)	染付	草花	露胎		砂粒付着	17c 末～ 18c 前半	202109000076
58	図版 12	SK30	陶器	碗	(12.0)	4.0	4.8	灰		岩山		露胎	京焼風	202109000054
59	図版 12	SK30	陶器	碗	(9.4)	3.1	5.9	灰	草花			露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000095
60	図版 12	SK30	陶器	碗	9.2	3.3	5.4	灰	桜・格子			露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000096
61	図版 12	SK30	陶器	碗	9.7	3.7	5.6	灰	不明			露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000097
62	図版 12	SK30	陶器	碗	9.0	3.0	5.1	灰	不明			露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000057
63	図版 12	SK30	陶器	碗	(9.0)	3.0	5.0	灰	不明			露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000058
64	図版 12	SK30	陶器	碗	-	3.2	(3.3)	灰				露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000059
65	図版 12	SK30	陶器	碗	-	3.2	(3.1)	灰				露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000060
66	図版 12	SK30	陶器	碗	-	3.2	(3.9)	灰				露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000061
67	図版 12	SK30	陶器	碗	-	3.2	(3.0)	灰				露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000062
68	図版 12	SK30	陶器	碗	-	-	(3.8)	灰	不明				18c 後半～ 19c 初頭	202109000064
69	図版 12	SK30	陶器	碗	9.3	3.1	(5.5)	灰	不明			露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000065
70	図版 12	SK30	陶器	碗	-	3.2	(4.0)	灰				露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000066
71	図版 13	SK30	陶器	碗	(9.2)	3.3	5.3	灰				露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000067
72	図版 13	SK30	陶器	碗	-	3.2	(3.3)	灰				露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000068
73	図版 13	SK30	陶器	碗	-	(3.2)	(3.8)	灰				露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000069
74	図版 13	SK30	陶器	碗	(9.2)	3.0	5.8	灰				露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000070
75	図版 13	SK30	陶器	碗	(9.4)	3.2	5.7	灰				露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000071
76	図版 13	SK30	陶器	碗	-	3.2	(4.1)	灰	不明			露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000072
77	図版 13	SK30	陶器	碗	(9.0)	3.1	5.2	灰				露胎	18c 後半～ 19c 初頭	202109000073
78	図版 13	SK30	陶器	碗	10.5	4.5	6.4	灰	若松			露胎	小杉碗	202109000083
79	図版 13	SK30	陶器	碗	(10.7)	4.0	5.3	灰	若松			露胎	小杉碗	202109000089
80	図版 13	SK30	陶器	小碗	(6.3)	2.3	3.9	灰	梅			露胎	18c 後半	202109000093
81	図版 13	SK30	陶器	小碗	6.4	2.3	4.0	灰	菖蒲			露胎	18c 後半	202109000094
82	図版 13	SK30	陶器	皿	-	4.8	(1.5)	灰		胎土目		兜巾		202109000084
83	図版 13	SK30	陶器	鉢	19.0	7.6	6.7	灰		刷毛目	蛇ノ目釉剥ぎ	露胎		202109000055
84	図版 13	SK30	陶器	土瓶	(9.0)	5.1	10.1	褐				露胎・煤付着		202109000078
85	図版 13	SK30	陶器	火入	10.6	6.1	8.5	灰	笹			露胎	輪花、京焼？、18c ～	202019000098
86	図版 13	SK30	土師器	塩壺	6.1	5.3	7.3	橙色	ナデ	ナデ				202109000090

第７表　久留米城下町遺跡第 30 次調査　出土遺物観察表３

遺物番号	図版番号	遺構	材質	器種	法量			染付釉薬色調	装飾・調整		見込み	底面・高台内印銘	備考	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）		外面	内面				
87	図版 13	SK30	土師器	塩壺蓋	7.8	6.0	2.0	橙色	ナデ	ナデ				202109000091
88	図版 13	SK30	土師器	人形	(2.5)	(2.9)	(2.1)	橙色					仏	202109000140
89	図版 13	SK30	ガラス	とんぼ玉	0.9	-	0.2	黄色						202019000100
90	図版 13	SK30	ガラス	不明	-	-	-	オリーブ灰色						202109000099
91	図版 13	SK30	銅製品	釘	2.7	0.8	0.1						0.8g	202019000424
92	図版 13	SK30	銅製品	銭貨	直径 2.3		0.1						2.1g、寛永通宝	202109000418
93	図版 13	SK30	銅製品	銭貨	直径 2.5		0.1						2.9g、寛永通宝、「文」	202109000419
94	図版 13	SK30	銅製品	銭貨	直径 2.4		0.1						2.5g、寛永通宝	202109000420
95	図版 13	SK30	銅製品	銭貨	直径 2.4		0.2						4.1g、寛永通宝	202109000421
96	図版 13	SK30	銅製品	銭貨	直径 2.4		0.3						8.8g、不明、鉄錆付着	202109000422
97	図版 13	SK30	銅製品	銭貨	直径 2.4		0.1						3.9g、寛永通宝	202109000423
98	図版 13	SK32	磁器	碗	-	-	(5.3)	染付	圏線・山水				17c	202109000103
99	図版 13	SK32	陶器	鉢	-	-	(5.2)	緑						202109000106
100	図版 13	SK32	陶器	擂鉢	(33.1)	-	(10.4)	褐	回転ナデ・一部施釉	回転ナデ・一部施釉・擂目			17c 後半	202109000107
101	図版 13	SK32	土師器	灯明皿	9.2	4.7	2.1	にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ		糸切り		202109000109
102	図版 13	SK32	土師器	土鈴	4.1	2.8	2.7	にぶい橙色	ナデ	ナデ				202109000110
103	図版 13	SK32	石製品	砥石	(2.4)	(2.3)	1.1	にぶい黄橙色					9.0g	202109000111
104	図版 13	SK37	磁器	碗	-	8.5	(1.8)	染付		草花	砂目	砂粒付着	明染	202109000114
105	図版 13	SK37	磁器	碗	-	-	(5.0)	染付	二重圏線・草花		二重圏線		18c 前半	202109000116
106	図版 14	SK37	陶器	大鉢	-	9.6	(3.6)	緑・鉄	露胎	刷毛目・打刷毛目	砂目			202109000118
107	図版 14	SK39	磁器	碗	-	4.2	(3.1)	染付	流水				18c 前半	202109000120
108	図版 14	SK39	磁器	碗	10.0	-	(3.5)	染付	丸・菊・草				18c 前半	202109000121
109	図版 14	SK39	磁器	水滴	6.5	3.8	(7.4)	染付	桜	露胎		底面無釉		202109000122
110	図版 14	SK39	磁器	火入	11.8	7.4	7.3	陶胎染付	圏線・二重圏線・遠山	一部施釉		露胎	朝妻焼、18c 前半	202109000123
111	図版 14	SK39	陶器	擂鉢	29.0	12.6	12.8	褐	擂目・ナデ	回転ナデ		糸切り	口縁部のみ施釉	202109000125
112	図版 14	SK39	陶器	火入	9.2	5.1	6.0	灰・緑	笹	回転ナデ		露胎		202109000124
113	図版 14	SK39	石製品	砥石	(3.8)	(3.7)	0.6	浅黄橙色					14.9g、使用痕あり	202109000126
114	図版 14	SK39	石製品	砥石	(5.8)	4.3	0.9	にぶい黄橙色					34.1g、使用痕あり	202109000127
115	図版 14	SK40	磁器	碗	(9.4)	(3.6)	5.0	白磁					口紅	202109000128
116	図版 14	SK40	陶器	皿	-	(4.8)	(1.5)	灰			砂目			202109000129
117	図版 14	SK42	磁器	碗	-	(3.4)	(2.9)	染付	圏線・龍文		圏線・不明	二重圏線	17c 末～	202109000132
118	図版 14	SK42	磁器	皿	-	(4.8)	(2.5)	染付	青磁		蛇ノ目釉剥ぎ・二重圏線・五弁花		18c 後半	202109000131
119	図版 14	SK42	石製品	砥石	(4.8)	3.0	1.1	明黄褐色					29.4g	202109000133
120	図版 14	SK42	銅製品	吸口	6.5	1.2	0.1						8.9g	202109000425
121	図版 14	SK44	磁器	碗	(11.8)	-	(4.0)	染付	氷裂菊花				18c 中頃	202109000134
122	図版 14	SK44	陶器	皿	(13.6)	(4.7)	4.0	灰			蛇ノ目釉剥ぎ	露胎	内ノ山系	202109000136
123	図版 14	SK46	磁器	碗	(10.4)	-	(4.4)	染付	桐				こんにゃく印判、18c 中頃	202109000137
124	図版 14	SK46	磁器	皿	-	(14.4)	(2.6)	染付	圏線・唐草	二重圏線・唐草	五弁花	圏線・二重圏線・「□成□年製」・ハリ痕	こんにゃく印判、18c	202109000138
125	図版 14	SK46	土師器	人形	(3.1)	(2.8)	(1.9)	橙色					仏	202109000139
126	図版 14	SK49	磁器	皿	(13.8)	7.8	3.4	染付	圏線・唐草	二重圏線・雲・雷文？	五弁花	圏線・二重圏線・不明・砂粒付着	墨弾き・こんにゃく印判、18c 後半	202109000148
127	図版 14	SK52	磁器	碗	-	-	(3.4)	染付	青磁	四方襷			18c 後半	202109000152
128	図版 14	SK52	磁器	碗	-	(4.0)	(3.4)	染付	圏線・五葉若葉			圏線・二重圏線	こんにゃく印判、18c 前半	202109000150
129	図版 14	SK52	陶器	灯明皿	9.2	4.2	2.7	褐	一部施釉			糸切り		202109000151

第８表　久留米城下町遺跡第 30 次調査　出土遺物観察表 4

遺物番号	図版番号	遺構	材質	器種	法量			染付釉薬色調	装飾・調整		見込み	底面・高台内印銘	備考	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）		外面	内面				
130	図版 14	SK54	磁器	皿	15.3	9.1	4.8	白磁			三足ハマ痕	蛇ノ目凹型高台	18c 前半	202109000177
131	図版 14	SK54	土師器	焜炉	(24.0)	(26.4)	22.4	赤色	ミガキ	ハケ目				202109000178
132	図版 14	SK56	磁器	碗	(12.6)	(6.6)	6.6	染付	牡丹？			砂目	釉生がけ？	202109000182
133	図版 14	SK56	磁器	皿	-	(7.0)	(2.2)	染付			圏線・砂目	砂目	明染？	202109000190
134	図版 14	SK56	陶器	碗	-	3.3	(3.2)	灰				兜巾・三日月高台		202109000183
135	図版 14	SK56	陶器	碗	-	5.0	(1.9)	白				縮緬皺		202109000184
136	図版 14	SK56	陶器	碗	-	-	-	白	不明				志野焼？	202109000185
137	図版 14	SK56	陶器	皿	-	-	(1.2)	灰					溝縁皿、17c 前半	202109000186
138	図版 15	SK56	陶器	皿	(13.2)	-	(4.4)	灰		不明			絵唐津、17c	202109000189
139	図版 15	SK56	陶器	擂鉢	(30.0)	-	(7.1)	褐色	回転ナデ	回転ナデ・擂目			口縁部のみ施釉	202109000180
140	図版 15	SK56	石製品	砥石	(4.5)	3.4	0.5	浅黄橙					14.4g	202109000181
141	図版 15	SK56	瓦質土器	火鉢	-	-	(5.3)	黄灰色	回転ナデ	ナデ・ハケ目				202109000187
142	図版 15	SK56	銅製品	銭貨	直径 2.4		0.1						1.6g、熙寧元宝	202109000454
143	図版 15	SK56	銅製品	銭貨	直径 1.8		0.1						0.9g、洪武通宝	202109000455
144	図版 15	SK56	銅製品	銭貨	直径 5.0		0.1						1.8g、洪武通宝	202109000456
145	図版 15	SK56	銅製品	銭貨	直径 3.2		0.1						1.5g、洪武通宝	202109000457
146	図版 15	SK58	磁器	碗	-	(4.8)	(4.0)	染付	圏線・丸		二重圏線・五弁花	二重圏線・渦福	こんにゃく印判、18c	202109000192
147	図版 15	SK58	磁器	碗	(8.4)	-	(5.0)	色絵	圏線・山水・花	四方襷	二重圏線		円筒碗、19c	202109000197
148	図版 15	SK58	磁器	碗蓋	(10.2)	-	(2.5)	染付	圏線・二重圏線・蛸唐草					202109000193
149	図版 15	SK58	磁器	皿	(9.4)	(5.2)	2.0	色絵	圏線・蝙蝠	二重圏線・雷文	岩山・不明	圏線		202109000194
150	図版 15	SK58	磁器	皿	(12.8)	4.8	3.6	染付		二重斜格子	二重圏線・蛇ノ目釉剥ぎ			202109000195
151	図版 15	SK58	磁器	紅皿	4.7	1.6	1.6	白磁						202109000196
152	図版 15	SK58	陶器	ハマ	6.2	-	1.6	にぶい橙色					三足ハマ	202109000198
153	図版 15	SK63	磁器	碗	-	4.6	(3.6)	色絵	紅葉		花？			202109000201
154	図版 15	SK63	磁器	碗	11.8	4.5	7.1	白磁	鎬状の削り込み				17c 末～ 18c 前半	202109000202
155	図版 15	SK63	磁器	碗	(11.2)	(4.2)	6.2	色絵？	山水				被熱、17c 末～ 18c 前半	202109000206
156	図版 15	SK63	磁器	皿	(7.1)	-	(2.1)	青磁						202109000207
157	図版 15	SK63	磁器	瓶	-	8.0	(10.6)	青磁		釉垂れ		露胎		202109000208
158	図版 15	SK63	陶器	皿	-	4.3	(2.3)	銅緑			蛇ノ目釉剥ぎ		17c 後半、内ノ山系	202109000200
159	図版 15	SK63	土師器	灯明皿	(8.6)	(4.0)	2.1	灰白色	回転ナデ	回転ナデ		糸切り	煤付着	202109000205
160	図版 15	SK63	銅製品	銭貨	直径 (2.4)		0.1						0.8g、寛永通宝	202109000458
161	図版 15	SK64	磁器	碗	-	-	(3.1)	染付	寿・鎬状の削り込み				17c	202109000209
162	図版 15	SK64	磁器	紅皿	(5.6)	2.3	1.5	白磁	口縁部を施釉				型押し成型	202109000211
163	図版 15	SK64	陶器	擂鉢	-	-	(5.6)	褐	回転ナデ	回転ナデ・擂目			口縁部のみ施釉、17c	202109000212
164	図版 15	SK64	石製品	砥石	4.4	3.1	0.6	灰黄					15.7g	202109000214
165	図版 15	SK64	銅製品	雁首	2.3	1.7	0.1						5.4g	202109000452
166	図版 15	SK64	銅製品	吸口	-	1.1	0.1						2.2g	202109000453
167	図版 15	SK70	磁器	碗	10.3	4.1	5.1	染付	氷裂菊花				18c 中頃	202109000219
168	図版 15	SK70	磁器	碗	10.3	4.1	4.8	染付	丸				18c 中頃	202109000220
169	図版 15	SK70	磁器	皿	(13.2)	4.6	4.0	染付		二重斜格子	二重圏線・蛇ノ目釉剥ぎ		18c 後半	202109000223
170	図版 15	SK70	磁器	仏飯	7.8	3.7	5.4	白磁					18c	202109000225
171	図版 15	SK70	陶器	蓋	(10.7)	-	4.7	灰・褐・緑		露胎				202109000226
172	図版 15	SK70	陶器	鉢	(18.6)	9.2	10.0	褐	白土化粧・刷毛目	白土化粧				202109000227

第９表　久留米城下町遺跡第 30 次調査　出土遺物観察表５

遺物番号	図版番号	遺構	材質	器種	法量			染付釉薬色調	装飾・調整		見込み	底面・高台内印銘	備考	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）		外面	内面				
173	図版 15	SK70	陶器	鉢	(21.4)	(9.4)	9.5	灰・褐	白土化粧・刷毛目	白土化粧・刷毛目				202109000228
174	図版 16	SK70	土師器	火鉢	(29.0)	(23.4)	12.0	灰	ナデ	ナデ				202109000229
175	図版 16	SK70	銅製品	銭貨	直径 2.4		0.1						3.7g、寛永通宝	202109000459
176	図版 16	SK70	銅製品	雁首	1.8	1.7	0.1						2.7g	202109000460
177	図版 16	SK70	銅製品	吸口	3.2	1.1	0.1						2.3g	202109000462
178	図版 16	SK72	磁器	碗	(11.0)	(4.2)	12.4	染付	亀甲繋ぎ文・蓮弁	四方襷	二重圏線・源氏香	二重圏線		202109000233
179	図版 16	SK72	磁器	碗	(7.4)	3.7	5.5	染付	圏線・格子・菊	二重圏線	圏線・五弁花	二重圏線	18c 後半	202109000237
180	図版 16	SK72	磁器	碗	(7.8)	-	(3.1)	色絵	若松・折鶴					202109000244
181	図版 16	SK72	磁器	碗	7.1	3.5	5.8	染付	圏線・松竹梅・雲	四方襷	圏線・五弁花	二重圏線	18c 末～	202109000253
182	図版 16	SK72	磁器	碗蓋	(10.6)	5.4	2.7	染付	竹・木	二重圏線	圏線・十字花	二重圏線	18c 末～ 19c 初頭	202109000240
183	図版 16	SK72	磁器	鉢	(15.8)	9.0	6.2	染付	桜	四方襷	二重圏線・松竹梅	二重圏線・「富□長□」・蛇ノ目凹型高台	輪花	202109000241
184	図版 16	SK72	磁器	仏飯	-	4.0	(6.5)	染付	圏線・格子・菊			露胎	18c 末	202109000242
185	図版 16	SK72	陶器	碗	9.0	2.8	5.6	灰				露胎	18c 後半	202109000247
186	図版 16	SK72	陶器	碗	12.8	4.7	6.7	白				露胎・ヘラケズリ	萩焼、18c	202109000248
187	図版 16	SK72	陶器	壺	7.2	5.0	5.6	黒褐色	回転ナデ	回転ナデ		糸切り	内面に墨？付着	202109000259
188	図版 16	SK72	石製品	砥石	(10.1)	5.8	0.9	にぶい黄橙色					95.9g	202109000251
189	図版 16	SK72	銅製品	吸口	5.0	1.9	0.05						4.8g	202109000461
190	図版 16	SK73	磁器	碗蓋	(9.2)	3.7	2.9	染付	海老・菱文	渦	雲		端反り碗蓋、19c 前半	202109000262
191	図版 16	SK73	磁器	猪口	-	(5.6)	(4.2)	染付	二重圏線・矢羽		圏線			202109000261
192	図版 16	SK73	磁器	湯呑	6.7	3.4	5.5	灰・褐						202109000263
193	図版 16	SK73	銅製品	銭貨	直径 (2.4)		0.1						1.4g、寛永通宝	202109000463
194	図版 16	SK73	銅製品	銭貨	直径 2.4		0.1						2.8g	202109000464
195	図版 16	SK73	銅製品	銭貨	直径 2.4		0.1						3.5g、寛永通宝	202109000465
196	図版 16	SK74	磁器	碗	11.4	4.2	6.0	染付			二重圏線・五弁花	砂粒付着	こんにゃく印判、くらわんか手、18c 後半	202109000264
197	図版 16	SK74	磁器	皿	-	3.9	(2.0)	染付		草花		砂付着	17c	202109000268
198	図版 16	SK74	磁器	皿	(14.4)	(8.0)	2.9	染付		二重圏線・草花	蛇ノ目釉剥ぎ・五弁花		こんにゃく印判、18c	202109000269
199	図版 16	SK74	磁器	猪口	(8.0)	(3.8)	5.6	染付	圏線・岩・柳			二重圏線		202109000266
200	図版 16	SK74	石製品	砥石	(8.5)	5.9	1.1	にぶい黄色					86.1 g	202109000271
201	図版 16	SK74	瓦	軒丸瓦	瓦当径 11.2㎝		2.0	オリーブ黒色	三巴・星９点					202109000270
202	図版 16	SK74	銅製品	鏡	(9.6)	(7.1)	0.2						24.6g	202109000466
203	図版 16	SK75	磁器	碗	(9.8)	-	(4.7)	染付	青磁	四方襷			口紅	202109000274
204	図版 16	SK75	磁器	碗	-	(4.4)	(3.6)	染付	花唐草				18c 前半	202109000273
205	図版 16	SK76	磁器	碗	(7.6)	-	(4.7)	染付	雪輪	二重圏線			18c 後半～末	202109000275
206	図版 16	SK76	磁器	鉢	(12.4)	6.2	5.4	染付	帯・蝙蝠	蝙蝠・不明			輪花、19c	202109000276
207	図版 16	SK77	磁器	碗	(7.4)	3.3	4.9	染付	圏線・二重格子			圏線	19c	202109000277
208	図版 17	SK77	磁器	碗	(6.8)	-	(4.6)	染付	山水・東屋	雷文			19c	202109000279
209	図版 17	SK77	磁器	皿	-	(12.0)	(2.0)	染付		連弁・不明	松竹梅	ハリ痕	墨弾き	202109000281
210	図版 17	SK77	磁器	鉢	17.0	7.9	8.1	染付	吹き墨・雪輪	二重圏線・吹き墨・雪輪	鳥		角鉢、18c 末～ 19c	202109000284
211	図版 17	SK77	磁器	瓶	1.9	(3.6)	10.1	染付	蛸唐草・圏線・鋸歯文	口縁部のみ施釉			19c	202109000285
212	図版 17	SK77	磁器	仏飯	7.0	4.0	5.5	染付	圏線・格子・波				18c 末	202109000286
213	図版 17	SK81	磁器	碗	9.0	-	(3.7)	染付	富士				こんにゃく印判、18c 前半	202109000292
214	図版 17	SK81	磁器	碗	(7.6)	-	(3.1)	染付	蕪				こんにゃく印判、18c 前半	202109000293
215	図版 17	SK81	磁器	盃	(7.6)	(2.8)	3.6	染付	暦文	圏線・二重圏線		二重圏線		202109000295

第 10 表　久留米城下町遺跡第 30 次調査　出土遺物観察表 6

遺物番号	図版番号	遺構	材質	器種	法量			染付釉薬色調	装飾・調整		見込み	底面・高台内印銘	備考	登録番号
					口径（長）	底径（幅）	器高（厚）		外面	内面				
216	図版 17	SK81	磁器	火入	(8.6)	3.2	4.5	青磁		口縁部のみ施釉				202109000299
217	図版 17	SK81	陶器	碗	(8.8)	3.5	6.6	灰	不明				京焼風	202109000300
218	図版 17	SK81	石製品	砥石	(9.3)	4.8	2.3	にぶい黄橙色					137.2 g、使用痕・被熱痕あり	202109000301
219	図版 17	SK81	銅製品	銭貨	直径 2.4		0.1						3.7g	202109000467
220	図版 17	SP2	陶器	雲助徳利	-	24.0	(31.1)	灰	ナデ	ナデ				202109000007
221	図版 17	SP2	瓦	桟瓦	27.2	26.5	1.7	暗灰色						202109000006
222	図版 17	SP51	磁器	湯呑	(7.0)	3.8	4.3	染付	二十圏線・微塵唐草・蓮弁	二十圏線・四方襷			19c	202109000149
223	図版 17	SP51	銅製品	銭貨	直径 2.4		0.1						0.4g	202109000449
224	図版 17	SP55	銅製品	把手	2.7	2.2	0.2						6.6g	202109000451
225	図版 17	SP80	石製品	硯	(13.1)	5.9	2.1	にぶい黄橙色					284.4 g	202109000291
226	図版 17	SX7	磁器	碗	-	-	(1.4)	染付					くらわんか手、18c 中頃	202109001455
227	図版 17	SX21	磁器	碗	11.2	4.4	6.0	染付	圏線・草花			圏線・二重圏線・変形字	18c 前半	202109000032
228	図版 17	SX21	磁器	碗	-	(4.5)	(3.2)	染付	圏線・五葉若葉			圏線・二重圏線	こんにゃく印判、18c 前半	202109000034
229	図版 17	SX21	磁器	碗	9.8	3.9	5.6	染付	圏線・松竹梅			二重圏線・変形字	くらわんか手、18c 前半	202109000043
230	図版 17	SX21	磁器	碗	9.9	4.0	5.1	染付	圏線・二重網目	網目	二重圏線・菊	二重圏線・渦福	18c 前半	202109000044
231	図版 17	SX21	磁器	碗	-	(3.6)	(1.6)	染付	青磁		二重圏線・五弁花		こんにゃく印判、18c 中頃	202109000045
232	図版 17	SX21	磁器	皿	-	(10.2)	(1.1)	染付	二重圏線	芙蓉手・花・石垣文・四方襷			17c 末～ 18c 前半	202109000030
233	図版 17	SX21	磁器	皿	(10.4)	-	(2.2)	染付		二重斜格子	蛇ノ目釉剥ぎ・二重圏線			202109000035
234	図版 17	SX21	磁器	皿	-	(8.5)	(2.4)	染付	梅			砂粒付着		202109000036
235	図版 17	SX21	磁器	瓶	-	5.8	(10.6)	染付	連弁・菱形枠	露胎		砂粒付着	色絵素地？	202109000040
236	図版 17	SX21	陶器	碗	(12.3)	(4.2)	(4.5)	灰				露胎		202109000041
237	図版 17	SX21	陶器	碗	-	(5.2)	(1.9)	灰			砂目			202109000038
238	図版 17	SX21	陶器	鉢	-	-	(4.3)	灰		蓮弁			三島手	202109000039
239	図版 17	SX21	陶器	火入	(10.5)	(4.2)	5.6	褐	回転ナデ	回転ナデ・一部施釉		露胎		202109000037
240	図版 17	SX21	土師器	人形	(4.2)	(3.2)	(2.3)	黄橙色					恵比寿	202109000147
241	図版 17	SX21	石製品	砥石	6.6	3.7	0.4	灰黄色					19.1g	202109000145

第 11 表　久留米城下町遺跡第 30 次調査　鍛冶関連遺物観察表 1

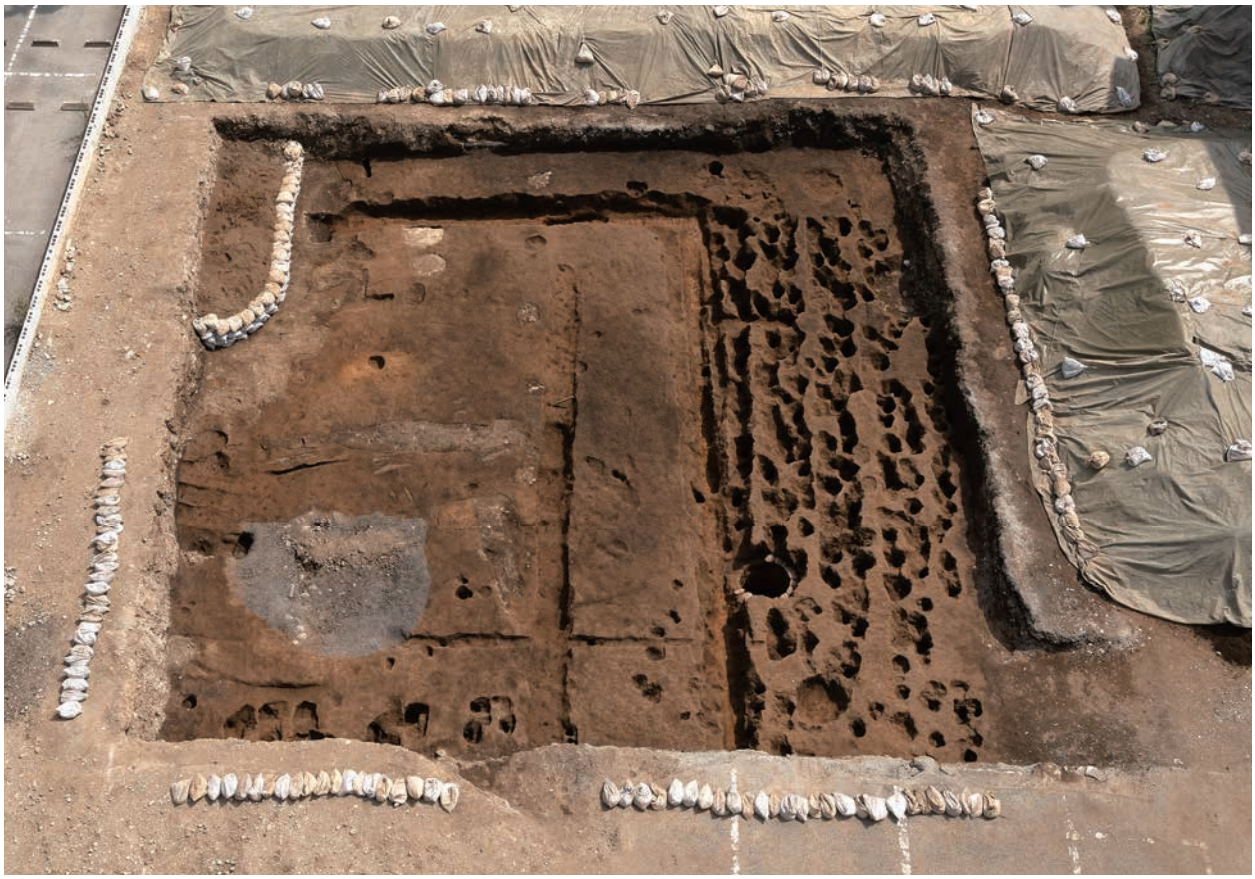
遺物番号	図版番号	遺構	材質	器種	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
242	図版 17	SE11	鉄滓	椀形滓	7.6	5.8	2.7	102.3		202109000318
243	図版 18	SE20	鉄滓	椀形滓	8.2	5.5	3.5	121.1		202109000346
244	図版 18	SE20	鉄滓	椀形滓	10.3	5.6	3.0	193.6		202109000347
245	図版 18	SE20	鉄滓	椀形滓	(6.7)	(5.0)	1.7	194.4		202109000348
246	図版 18	SE20	鉄滓	鉄滓	5.5	5.3	0.8	74.1		202109000337
247	図版 18	SE20	鉄製品	釘	7.7	1.6	1.7	17.4		202109000338
248	図版 18	SE20	鉄製品	刀子	(7.6)	1.6	0.6	14.7		202109000343
249	図版 18	SE20	鉄製品	鉄片	6.1	4.2	0.8	28.9		202109000345
250	図版 18	SE34	鉄滓	椀形滓	5.9	5.0	3.2	107.2		202109000394
251	図版 18	SE34	鉄製品	鎌	(10.0)	2.3	0.8	90.4		202109000397
252	第 17 図・図版 18	SE53	鉄滓	椀形滓	11.9	10.1	4.9	389.5		202109000428
253	図版 18	SE53	鉄滓	椀形滓	7.2	4.1	1.9	60.9		202109000980
254	図版 18	SE53	鉄滓	椀形滓	4.7	4.9	2.1	51.8		202109000981
255	図版 18	SE53	鉄滓	椀形滓	6.5	6.4	2.0	147.0		202109001017
256	図版 18	SE53	鉄滓	椀形滓	6.4	5.4	1.2	61.8		202109001160
257	図版 18	SE53	鉄製品	釘	6.7	1.0	1.0	14.2		202109000430
258	図版 18	SE53	鉄製品	釘	3.2	0.7	0.7	2.5		202109000433
259	第 17 図・図版 18	SE53	鉄製品	包丁	15.3	4.0	0.8	89.5		202109000427
260	図版 18	SK3	鉄滓	椀形滓	8.1	5.8	2.3	89.3		202109000303
261	図版 18	SK4	鉄滓	椀形滓	6.0	5.3	3.0	134.5		202109000304
262	図版 18	SK4	鉄製品	釘	4.3	0.8	0.7	3.0		202109000306
263	第 17 図・図版 18	SK4	鉄製品	釘	6.2	0.9	0.9	6.7		202109000308
264	図版 18	SK14	鉄滓	椀形滓	7.3	5.7	3.6	123.0		202109000321
265	図版 18	SK15	鉄滓	精錬鍛冶滓	5.3	3.4	1.6	28.8		202109000334
266	図版 18	SK15	鉄製品	釘	3.8	1.1	0.4	3.1		202109000328
267	第 17 図・図版 18	SK15	鉄製品	毛抜	8.3	1.7	0.3	18.3		202109000322
268	図版 18	SK17	鉄滓	椀形滓	4.2	4.9	2.0	60.3		202109000538
269	図版 18	SK17	鉄滓	椀形滓	6.2	5.4	2.1	78.5		202109000335
270	図版 18	SK17	鉄滓	精錬鍛冶滓	4.3	3.5	1.4	21.5		202109000535
271	図版 18	SK17	鉄滓	鉄滓	4.3	4.2	1.7	41.6		202109000336
272	図版 18	SK28	鉄滓	椀形滓	7.9	6.1	2.8	115.3		202109000610
273	図版 18	SK30	鉄滓	椀形滓	7.7	(5.3)	2.4	155.2		202109000351
274	図版 18	SK30	鉄滓	椀形滓	8.8	7.9	2.8	200.5		202109000352
275	図版 18	SK30	鉄滓	椀形滓	6.7	5.4	1.7	76.8		202109000354
276	図版 18	SK30	鉄滓	椀形滓	7.3	5.3	1.9	104.3		202109000355
277	図版 18	SK30	鉄滓	精錬鍛冶滓	6.1	5.4	4.2	57.2		202109000362
278	図版 19	SK30	鉄滓	精錬鍛冶滓	6.7	3.7	1.6	40.8		202109000629
279	図版 19	SK30	鉄滓	精錬鍛冶滓	6.0	4.6	1.6	45.7		202109000630
280	第 17 図・図版 19	SK30	鉄滓	精錬鍛冶滓	8.8	7.75	4.3	115.3		202109000353
281	図版 19	SK30	鉄製品	鉄塊系遺物	6.1	2.7	2.4	63.0		202109000676
282	図版 19	SK30	鉄製品	釘	8.4	0.5	0.5	6.9		202109000356
283	図版 19	SK30	鉄製品	釘	2.9	0.7	0.6	2.6		202109000359
284	図版 19	SK32	鉄滓	椀形滓	10.5	7.8	4.1	346.0		202109000366
285	図版 19	SK32	鉄滓	椀形滓	(8.7)	(5.6)	2.4	142.0		202109000378
286	図版 19	SK32	鉄滓	椀形滓	(6.9)	(6.6)	3.8	177.5		202109000380
287	図版 19	SK32	鉄滓	椀形滓	8.7	7.4	2.9	226.5		202109000387
288	図版 19	SK32	鉄滓	椀形滓	5.9	3.7	1.5	38.0		202109000712
289	図版 19	SK32	鉄滓	椀形滓	5.4	4.5	1.3	35.5		202109000713
290	図版 19	SK32	鉄滓	椀形滓	4.9	3.7	2.0	43.1		202109000746
291	図版 19	SK32	鉄滓	椀形滓	6.4	5.2	3.2	82.9		202109000772
292	第 17 図・図版 19	SK32	鉄滓	精錬鍛冶滓	5.3	3.2	2.3	27.5		202109000716
293	図版 19	SK32	鉄滓	精錬鍛冶滓	4.5	3.5	1.3	46.4		202109000745

第 12 表　久留米城下町遺跡第 30 次調査　鍛冶関連遺物観察表 2

遺物番号	図版番号	遺構	材質	器種	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
294	図版 19	SK32	鉄滓	精錬鍛冶滓	8.3	4.7	2.5	85.0		202109000773
295	第 17 図・図版 19	SK32	鉄滓	精錬鍛冶滓	5.9	5.8	2.7	42.7		202109000774
296	図版 19	SK32	鉄滓	鉄滓	4.1	4.0	2.9	60.2		202109000367
297	図版 19	SK32	鉄滓	鉄塊系遺物	10.8	9.0	3.3	457.0		202109000379
298	図版 19	SK32	鉄製品	釘	4.2	0.8	1.0	5.3		202109000371
299	図版 19	SK32	鉄製品	釘	5.0	1.0	0.6	8.1		202109000389
300	図版 19	SK32	鉄製品	包丁	7.9	4.0	0.9	56.0		202109000369
301	図版 19	SK32	鉄製品	包丁	(8.6)	4.8	0.5	46.8	丸包丁か	202109000393
302	第 17 図・図版 19	SK32	鉄製品	鋏	5.8	3.3	0.7	14.0		202109000373
303	第 17 図・図版 19	SK32	鉄製品	鎌	(8.9)	3.2	0.4	22.3		202109000391
304	図版 19	SK32	鉄製品	鎌	(7.2)	2.5	0.3	17.2		202109000392
305	図版 19	SK39	鉄滓	椀形滓	7.1	6.5	2.6	139.9		202109000398
306	図版 19	SK39	鉄滓	椀形滓	5.2	4.5	3.3	52.6		202109000814
307	図版 19	SK39	鉄滓	精錬鍛冶滓	6.2	4.7	1.9	71.8		202109000399
308	図版 19	SK39	鉄製品	釘	6.0	1.0	0.5	6.7		202109000402
309	図版 19	SK40	鉄滓	椀形滓	5.3	3.8	2.6	47.3		202109000844
310	図版 19	SK40	鉄滓	鉄滓	6.4	4.8	2.9	90.5		202109000406
311	図版 20	SK42	鉄滓	椀形滓	7.8	5.0	3.7	110.7		202109000408
312	図版 20	SK42	鉄滓	椀形滓	5.7	6.0	1.5	71.5		202109000688
313	図版 20	SK42	鉄滓	精錬鍛冶滓	4.5	2.9	2.5	38.9		202109000876
314	図版 20	SK44	鉄滓	椀形滓	8.1	6.4	2.9	166.6		202109000411
315	図版 20	SK44	鉄滓	椀形滓	5.4	3.9	2.2	37.9		202109000898
316	図版 20	SK46	鉄滓	椀形滓	10.3	8.4	3.3	323.5		202109000412
317	図版 20	SK46	鉄滓	椀形滓	8.3	7.5	2.5	128.0		202109000413
318	図版 20	SK46	鉄滓	精錬鍛冶滓	5.4	4.5	2.2	51.0		202109000923
319	図版 20	SK46	鉄製品	釘	6.7	1.3	0.9	15.7		202109000415
320	第 17 図・図版 20	SK48	土製品	羽口	-	-	(3.6)	-	内面は剥落	202109001452
321	第 17 図・図版 20	SK48	土製品	羽口	-	-	(2.2)	-	内面は剥落	202109001453
322	図版 20	SK52	鉄滓	椀形滓	7.0	5.2	4.1	148.0		202109000426
323	図版 20	SK52	鉄滓	椀形滓	(5.3)	(5.3)	2.4	98.5		202109000468
324	図版 20	SK52	鉄滓	精錬鍛冶滓	5.0	3.2	1.9	38.1		202109001225
325	図版 20	SK54	鉄製品	包丁？	(18.8)	3.3	0.1	211.2		202109000434
326	図版 20	SK56	鉄製品	釘	3.6	0.4	1.3	1.9		202109000437
327	図版 20	SK56	鉄滓	精錬鍛冶滓	8.9	5.9	0.7	103.8		202109000438
328	図版 20	SK56	鉄製品	釘	5.3	0.7	4.7	5.0		202109000439
329	図版 20	SK64	鉄滓	椀形滓	7.5	5.0	3.1	117.5		202109001304
330	図版 20	SK70	鉄滓	椀形滓	9.0	(4.6)	1.9	196.4		202109000442
331	図版 20	SK72	鉄滓	椀形滓	6.5	5.1	2.7	126.5		202109001354
332	図版 20	SK74	鉄滓	椀形滓	8.1	5.9	3.7	168.6		202109000443
333	図版 20	SK76	鉄滓	精錬鍛冶滓	5.6	4.3	2.0	46.5		202109001410
334	図版 20	SK76	鉄滓	鉄滓	6.3	(4.5)	1.0	148.9		202109000445
335	図版 20	SK81	鉄製品	釘	8.6	1.3	0.1	27.1		202109000446
336	図版 20	SP27	鉄滓	椀形滓	6.1	5.1	1.6	59.1		202109000604
337	図版 20	SP27	鉄滓	精錬鍛冶滓	5.1	2.5	1.0	27.8		202109000605
338	図版 20	SP60	鉄滓	椀形滓	8.6	6.6	2.8	218.4		202109001274
339	図版 20	SP68	鉄製品	鉄塊系遺物	6.2	6.0	4.0	387.5		202109000441
340	第 17 図・図版 20	SX7	鉄滓	精錬鍛冶滓	6.8	5.5	2.75	70.8		202109000317
341	図版 20	SX7	鉄滓	精錬鍛冶滓	6.1	4.9	3.1	74.4		202109000491
342	図版 20	SX21	鉄滓	椀形滓	6.9	5.3	2.7	131.7		202109000349
343	図版 20	SX21	鉄滓	椀形滓	7.0	5.4	2.9	125.4		202109000350
344	図版 20	SX21	鉄滓	椀形滓	6.0	4.2	2.0	61.1		202109000588

図　版

図版 1



（1）十間屋敷遺跡第 11 次調査　調査区東側全景（北上空から）

（2）十間屋敷遺跡第 11 次調査　調査区西側全景（東から）

図版２

（１）ＳＤ７土層断面（南から）

（２）ＳＤ 13 土層断面（西から）

（３）ＳＤ 13・47 土層断面（北から）

（４）トレンチ土層断面（北から）

（５）ＳＥ 18 検出状況（東から）

（６）ＳＫ 12 土層断面（西から）

（７）ＳＫ 17 土層断面（南西から）

（８）畝状遺構完掘状況（北から）

図版 3

十間屋敷遺跡第 11 次調査　遺物写真

図版４

（１）久留米城下町遺跡第 30 次調査　西区全景（東上空から）

（２）久留米城下町遺跡第 30 次調査　東区全景（西上空から）

（１）ＳＥ 11 掘削状況（北から）

（２）ＳＥ 20 土層断面（南から）

（３）ＳＥ 53 土層断面（南から）

（４）ＳＫ１土層断面（南西から）

（５）ＳＫ３土層断面（東から）

（６）ＳＫ３完掘状況（北西から）

（７）ＳＫ４完掘状況（北西から）

（８）ＳＫ 14 土層断面（南西から）

図版６

（１）ＳＫ 17 完掘状況（西から）

（２）ＳＫ 19 土層断面（南から）

（３）ＳＫ 29 完掘状況（北西から）

（４）ＳＫ 30 土層断面（西から）

（５）ＳＫ 30 完掘状況・ＳＥ 34 掘削状況（北西から）

（６）ＳＫ 32 土層断面（東から）

（７）ＳＫ 35・37 完掘状況（東から）

（８）ＳＫ 39 完掘状況（南西から）

（１）ＳＫ 42 完掘状況（南から）

（２）ＳＫ 44 完掘状況（南から）

（３）ＳＫ 48 土層断面（南から）

（４）ＳＫ 49 完掘状況（北西から）

（５）ＳＫ 52 土層断面（南から）

（６）ＳＫ 54 土層断面（西から）

（７）ＳＫ 54 遺物出土状況（北から）

（８）ＳＫ 56 土層断面（南から）

図版８

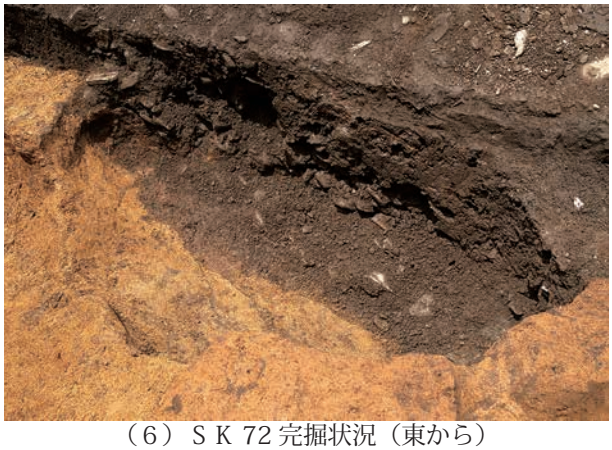
（１）ＳＫ 56 完掘状況（南西から）

（２）ＳＫ 58 完掘状況（北西から）

（３）ＳＫ 63 土層断面（南から）

（４）ＳＫ 64 完掘状況（北から）

（５）ＳＫ 70 土層断面（西から）



（６）ＳＫ 72 完掘状況（東から）

（７）ＳＫ 73 完掘状況（北から）

（８）ＳＫ 74 完掘状況（北から）

（１）ＳＫ 75 完掘状況（南から）

（２）ＳＫ 81 掘削状況（東から）

（３）ＳＰ２出土状況（南から）

（４）ＳＰ 50 出土状況（北西から）

（５）ＳＰ 55 出土状況（北東から）

（６）ＳＸ７南側土層断面（西から）

（７）ＳＸ７（北西から）

（８）ＳＸ７炉部分（東から）

図版 10

（1） ＳＸ７完掘状況（南から）

（2） ＳＸ 21 土層断面（南東から）

（3） ＳＸ 21 土層断面（東から）

（4） ＳＸ 21 土層断面（南から）

（5） ＳＸ 21 土層断面（西から）

（6） ＳＸ 21 土層断面（北から）

（7） ＳＸ 21 炉検出状況（南東から）

（8） ＳＸ 21 完掘状況（南東から）

久留米城下町遺跡第 30 次調査　遺物写真 1

図版 12

久留米城下町遺跡第 30 次調査　遺物写真 2

図版 13

久留米城下町遺跡第 30 次調査　遺物写真 3

図版 14

久留米城下町遺跡第 30 次調査　遺物写真 4

久留米城下町遺跡第 30 次調査　遺物写真 5

図版 16

久留米城下町遺跡第 30 次調査　遺物写真 6

久留米城下町遺跡第 30 次調査　遺物写真 7

図版 18

久留米城下町遺跡第 30 次調査　遺物写真 8

久留米城下町遺跡第 30 次調査　遺物写真 9

図版 20

久留米城下町遺跡第 30 次調査　遺物写真 10

（1） ＳＫ 48 出土鉄滓・羽口・粒状滓・鍛造剥片・石炭

（2） ＳＫ 14 出土石炭

（3） ＳＫ 48 出土石炭

（4） ＳＫ 48 出土粒状滓

（5） ＳＫ 48 出土鍛造剥片

報　告　書　抄　録

ふりがな	じっけんやしきいせきーだい 11 じちょうさー　くるめじょうかまちいせきーだい 30 じちょうさー
書名	十間屋敷遺跡－第 11 次調査－　久留米城下町遺跡　－第 30 次調査－
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 443 集
編著者名	長谷川　桃子
編集期間	久留米市市民文化部文化財保護課
所在地	〒 830-8520　福岡県久留米市城南町 15 番地３　TEL：0942-30-9225　FAX：0942-30-9714 Email：bunkazai@city.kurume.lg.jp
発行年月日	2023（令和５）年３月 31 日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
十間屋敷遺跡（じっけんやしきいせき） 第 11 次調査（だいじちょうさ）	福岡県久留米市日吉町（ふくおかけんくるめしひよしまち）28 － 12, － 14, － 15, － 16, － 17, － 18	40203	031200	33° 18’ 55”	130° 31’ 06”	20210419 ～ 20210522	265㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
十間屋敷遺跡 第 11 次調査	集落	近世	溝 井戸 土坑 畝状遺構 ピット	4 条 1 基 5 基 多数 多数	近世陶磁器、金属器など	久留米藩家老有馬主膳中屋敷の調査

要約

調査地は、久留米藩家老有馬主膳の中屋敷にあたる。溝は 18 世紀前半から幕末まで機能したと考えられる。畝状遺構が調査区西側で広がることや、遺構の広がりが希薄であることから、調査地周辺は空閑地として広がっていた可能性が高い。

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
久留米城下町遺跡（くるめじょうかまちいせき） 第 30 次調査（だいじちょうさ）	福岡県久留米市通町（ふくおかけんくるめしとおりちょう）104 － 20, － 21	40203	031132	33° 18' 56”	130° 31’ 06”	20210522 ～ 20210716	139㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
久留米城下町遺跡 第 30 次調査	集落	近世	井戸 土坑 鍛冶炉 ピット	4 基 48 基 2 基 多数	近世陶磁器、ガラス製品、鉄滓、金属器、石炭など	鍛冶屋の調査

要約

17 世紀から 19 世紀の鍛冶屋を調査した。鍛冶炉と鍛冶関連遺物の検討から、精錬鍛冶・鍛錬鍛冶・低温鍛錬鍛冶・高温鍛錬鍛冶の 4 種の工程が考えられる。精錬鍛冶滓や椀形滓の出土量から 17 世紀後半が本格的な操業であり、18 世紀後半にピークを迎えたと推測される。また、石炭が近世の鍛冶に使用された可能性がある。

土木工事の届出日	令和２年９月 29 日	遺物の発見通知日	令和３年７月 21 日 （３文財第 1046 号）

十 間 屋 敷 遺 跡
―第 11 次発掘調査報告―
久留米城下町遺跡
―第 30 次発掘調査報告―
久留米市文化財調査報告書　第 443 集
令和５年３月 31 日
発行　久留米市教育委員会
編集　久留米市市民文化部文化財保護課
印刷　中村印刷有限会社
久留米市梅満町 972